

維管束植物 <シダ植物 ハナヤスリ科>

コハナヤスリ *Ophioglossum thermale* Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudô) M.Nishida**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 11。丈の低い草地に生育する植物で、名古屋
市では生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

小型の夏緑性のシダ植物。根茎は短く、1～数枚の葉を束生する。栄養葉の葉身は長楕円形～広披針形、長さ 2.5～5cm、幅 0.8～1.5cm、先端は鋭頭、基部は次第に細くなる。孢子葉は栄養葉の葉身基部から分かれて直立し、長さ 6～9cm の柄があり、その先に長さ 1～4cm の孢子のう穂がつく。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根太鼓ヶ根，村松正雄 24586，2008-9-21）、昭和区（八事本町興正寺，渡邊幸子 5249，2002-10-23）、天白区（天白町八事霊園，芹沢 76747，2000-5-27）、緑区（鳴海町笹塚，渡邊幸子 6826，2014-7-2）に生育している。

【県内の分布】

平野部～丘陵地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、一宮西部で確認されている。

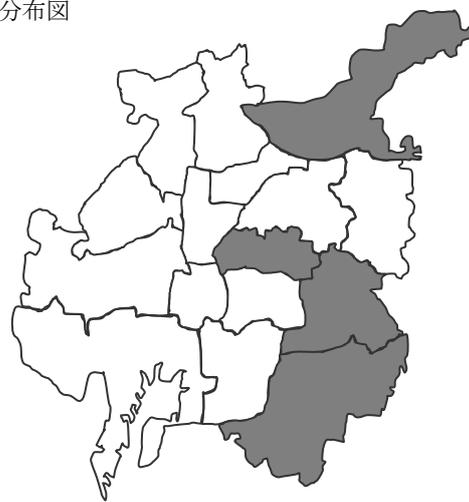
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当たりのよい、丈の低い草地に生育する。しばしば墓地に生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 2 株生育していただけで、その後の状況は確認されていない。八事霊園には点在するが、墓地の改修により減少している。緑区では公園内の墓地やその周辺に点在している。

【保全上の留意点】

土地が過度に攪乱されれば消滅するが、攪乱が停止され、丈の高い草に覆われても消滅してしまう。公園や墓地を管理し、軽度の攪乱を継続することが必要である。

【特記事項】

基準変種のハマハナヤスリ var. *thermale* と区別しないという見解もある。県内分布の記述は、ハマハナヤスリを含むものである。

【関連文献】

保シダ p.31, 平シダ p.63.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <シダ植物 ハナヤスリ科>

オオハナワラビ *Sceptridium japonicum* (Prantl) Lyon

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。森林性の植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形態】

秋から冬にかけて葉を出すシダ植物。冬緑性だが、夏まで葉が残ることが多い。根茎は短く直立し多数の肉質の根を出す。栄養葉は1枚で長さ12~20cmの柄があり、葉身はやや厚い草質、三角状五角形、長さ10~20cm、幅15~25cmで3回羽状深裂、裂片の辺縁は鋭鋸歯となる。孢子葉は栄養葉の基部から分かれて直立し、柄は長さ15~35cm、その先に長さ8~15cmの円錐形の孢子のう穂がつく。孢子は10~11月に熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（平針荒池，西川勇夫 372, 1994-9-18）、中区（名古屋城，芹沢 85231, 2009-10-20）に生育している。

【県内の分布】

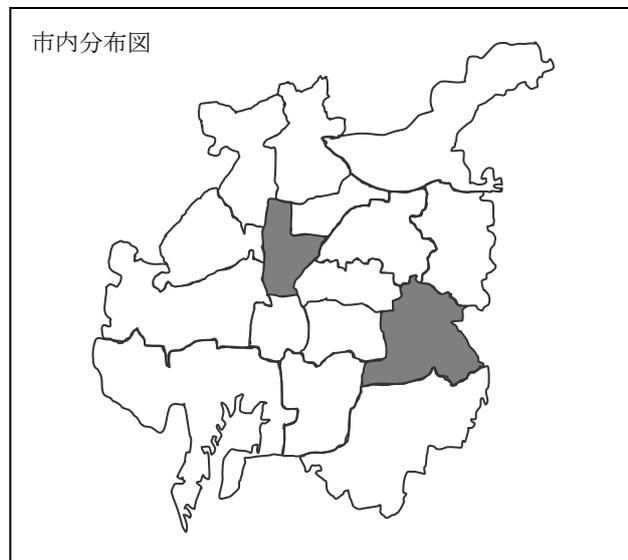
県内の低山地には点在するが、個体数はそれほど多いものではない。丘陵地では少なく、尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、美浜南知多、犬山、春日井、あま大治で確認されている。

【国内の分布】

本州（東北地方中部以南）、四国、九州。南限は屋久島である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地のやや湿った林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋城には比較的大きい群落がある。天白区ではため池に接した斜面の二次林内に10数個体が生育していたが、最近の状況は確認されていない。丘陵地の開発による消滅が懸念される。

【保全上の留意点】

名古屋城の集団は、過度の除草などが行わなければ、そのまま存続すると思われる。

【特記事項】

フユノハナワラビに比べ、葉縁の鋸歯が鋭い。名古屋城の集団では、他に比べ特に葉縁の鋸歯が鋭い個体が見られる。

【関連文献】

保シダ p.28, 平シダ p.66.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1985. 日本のシダ植物図鑑 6:292-304. 東京大学出版会, 東京.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物

維管束植物 <シダ植物 チャセンシダ科>

トキワトラノオ *Asplenium pekinense* Hance

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 3、総点 11。名古屋市では生育地が少ない。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 2~5cm、葉身は広披針形、3 回羽状に切れ込み、長さ 8~15cm、先端は鋭頭、下部の羽片はやや短くなり、しばしば掌状に近い形になる。中部の羽片は狭卵形、葉質は厚く、表面は深緑色でやや光沢がある。胞子のう群は裂片の中肋に沿ってつき、長楕円形、長さ 1.5~2.5mm、半月形の包膜がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷，芹沢 78431, 2002-10-26）、中区（名古屋城，村松正雄 22967, 2006-1-21）、昭和区（鶴舞公園，鳥居ちよ子 2418, 2003-11-18）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、新城、豊橋北部、犬山、春日井に生育しているが、各区画とも生育地点数はわずかである。鳳来北東部にもあったが、石垣の改修により消失した。

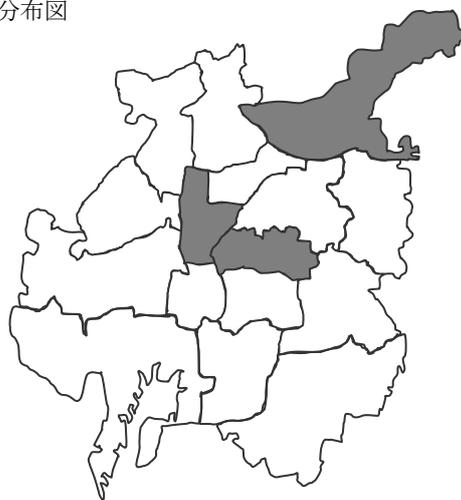
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州（最南部を除く）に生育し、沖縄本島でも採集されたことがある。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、シベリア東部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

本来は石灰岩の岩壁のすそなどに生育する植物と思われるが、現在では石垣に生育していることが多い。名古屋市の生育地も石垣である。

【現在の生育状況／減少の要因】

中区の生育地は名古屋城の石垣で、個体数も比較的多い。昭和区は鶴舞公園内に小群落がある。守山区は民家の古い石垣に小群落があるが、石垣の改修により消失するおそれがある。

【保全上の留意点】

名古屋城の石垣に生育しているものは、過度の除草等が行われなければ、将来も存続すると思われる。

【特記事項】

近縁のコバノヒノキシダ *A. anogrammoides* H.Christ からは、葉身が細く、葉表が深緑色で光沢があることで区別できる。

【関連文献】

保シダ p.151, 平シダ p.149, SOS 旧版 p.38, 愛知県 p.480.
倉田 悟・中池敏之（編）. 1981. 日本のシダ植物図鑑 2:124-129. 東京大学出版会, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 ウマノスズクサ科>

スズカカンアオイ *Heterotropa nipponica* (F.Maek.) F.Maek. var. *brachypodion* (F.Maek.) F.Maek.**【選定理由】**

個体数階級1、集団数階級3、生育環境階級3、人為圧階級2、
 県内分布 2、総点 11。林地に生育する植物で、名古屋市では減少傾向が著しい。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は短く、暗紫色で節が多い。葉は長さ7~20cmの柄があり、葉身は卵形~卵状楕円形、ときに卵形ほこ形、長さ6~10cm、幅4~7cm、先端は鋭頭または鈍頭、基部は深い心形、表面は濃緑色で通常不明瞭な白斑がある。花期は10~2月、花は地表に接して咲き、がく筒は筒状鐘形で長さ約1cm、内面は格子状の隆起腺がある。がく裂片は開出し、筒部よりもやや長い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味宮前、芹沢 86680, 2011-2-10; 吉根階子田, 鳥居ちゑ子 2422, 2004-2-12）に生育している。

【県内の分布】

西三河北部と尾張北部に分布する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育している。渥美半島と知多半島には、がく裂片が短いカントウカンアオイ var. *nipponica* が分布している。

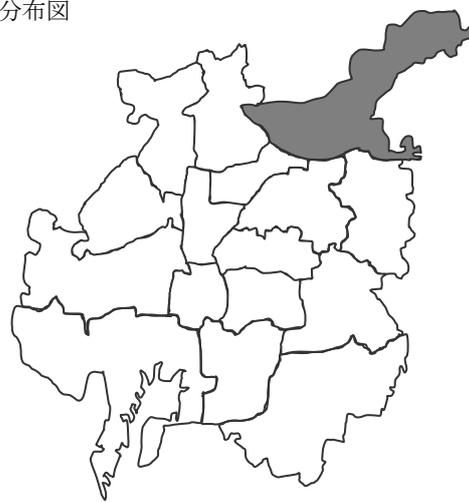
【国内の分布】

本州（静岡県中西部、愛知県、岐阜県、三重県）。

【世界の分布】

日本固有。種としても日本固有である。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

低山地や丘陵地の林内に生育する。二次林内に生育していることが多いが、造林地にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発により、生育できる場所そのものが減少している。園芸目的の採取もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全する必要がある。耐陰性のある植物なので、森林化の影響は他の里山の植物ほど深刻ではない。

【特記事項】

丘陵地の代表的な絶滅危惧昆虫であるギフチョウの食草になる。

【関連文献】

保草Ⅱp.323, 平草Ⅱp.108.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 クスノキ科>

カゴノキ *Litsea coreana* H.Lév.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 1、県内分布 1、総点 11。暖地の照葉樹林の構成種で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の高木。高さ 15m に達する。樹皮は淡灰黒色であるが、円くはげ落ち鹿の子模様となる。葉は互生し、長さ 8~15mm の柄があり、葉身は倒披針形または倒卵状長楕円形、長さ 5~9cm、幅 1.5~4cm、薄い革質で裏面は灰白色になる。花期は 9 月。雌雄異株で、枝の下部から上部にかけて無柄の散形花序を 3~4 個つける。花は黄色、果実は倒卵状球形で長さ 7~8mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味大村池西側、日比野修 4530, 1998-6-11）、熱田区（高蔵町、高木順夫 3700, 1993-9-18）に生育している。

【県内の分布】

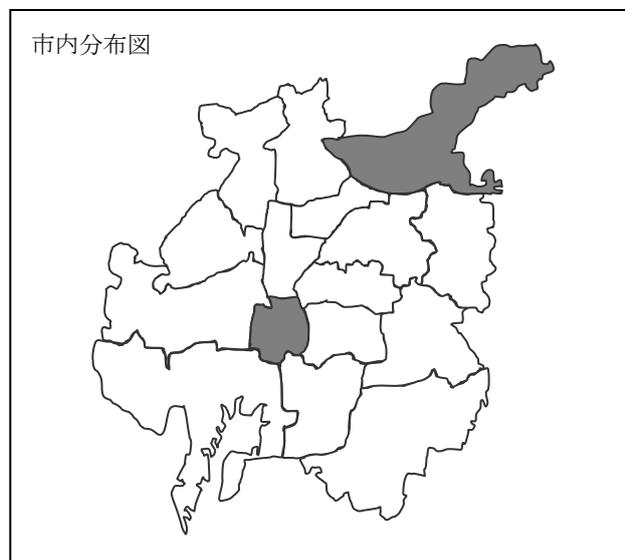
低山地には点在するが、丘陵地には少なく、平野部にはほとんど見られない。標高の高い場所にも生育していない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井で記録されている。

【国内の分布】

本州（関東地方および福井県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾。



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林の構成種で、しばしば社寺林などに生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では 1 株あっただけで、その後確認していない。熱田区では高蔵町高座神社境内に数株生育しており、大きいものは直径 50cm くらいになっている。

【保全上の留意点】

守山区では伐採されないよう注意する必要がある。熱田区のもの現在の管理を継続すれば当面はそれで十分である。

【特記事項】

和名は鹿子の木で、樹皮が鹿の子文様となることに由来する。

【関連文献】

保木 II pp.186-187, 平木 I p.123.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 クスノキ科>

シロダモ *Neolitsea sericea* (Blume) Koidz.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。暖地性の樹木で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の高木。高さは 15m に達する。小枝は緑色、無毛である。葉は互生し、長さ 2~3cm の柄があり、葉身は長楕円形または卵状長楕円形、長さ 8~18cm、幅 4~8cm、3 脈が目立ち、裏面は灰白色で多少絹糸がある。花期は 10~11 月。雌雄異株で、葉腋に 1~数個の無柄の散形花序をつける。花被片は長さ約 3.5mm、淡黄色、果実は楕円状球形で、長さ 12~15mm、開花した翌年の秋に赤色に熟す。葉裏に黄褐色の絹毛を密生するものを、キンショクダモ form. *aurata* (Hayata) Kitam. という。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町平針奴女里川，渡邊幸子 3849, 1999-5-23, キンショクダモの型）、西区（名塚町庄内川，鳥居ちる子 2226, 2002-10-19）、熱田区（旗屋断夫山古墳，高木順夫 s.n., 2003-11-1）に生育している。

【県内の分布】

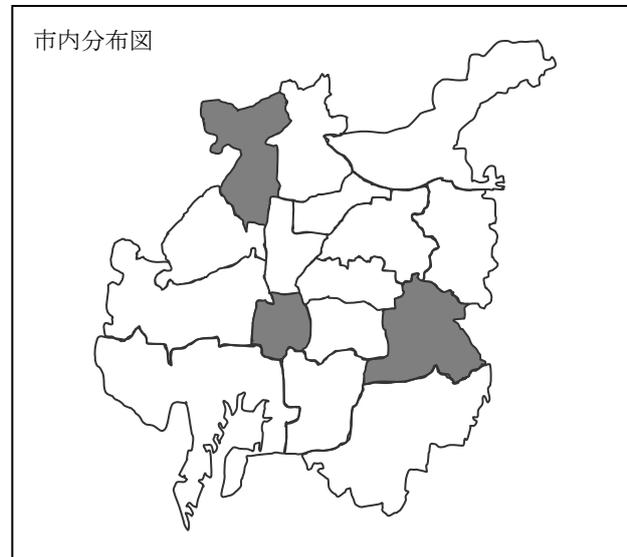
低山地~丘陵地に点在し、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西などで確認されている。

【国内の分布】

本州（東北地方中部以南）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

暖地照葉樹林の構成種で、沿海部の低山地に多い。種子が鳥によって散布されるため、断片的な社寺林などにも生育していることがある。

【現在の生育状況／減少の要因】

西区では庄内川河川敷の林内に、タブノキなどに混じって若木数株が生育していた。熱田区では白鳥塚古墳などに数株生育しており、大きいものは直径 20cm くらいある。天白区は直径 50cm くらいのもので 2 本生育しており、周辺に幼株が多数見られる。

【保全上の留意点】

熱田区のもものは保全緑地内に生育しており、緑地の保全が継続されれば当面は現状のまま存続するものと思われる。天白区のキンショクダモについては、個体レベルでの保全が必要である。

【関連文献】

保木 II p.183, 平木 II p.121.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 サトイモ科>

ウラシマソウ *Arisaema urashima* H.Hara

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。名古屋市では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎はほぼ球状で、上部から多くの根を出し、多数の子球をつける。葉身のある葉は通常 1 個、葉鞘は短く、長さ 3~10cm である。葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 11~17、互いに接近してつき、葉軸はあまり発達しない。小葉は長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁、表面は深緑色で光沢がある。花期は 4~5 月、仏焰苞は葉と同時に開き、葉より低い位置につき、筒部は長さ 4~6cm、白色で紫条があり、口辺は狭く開出、舷部は濃紫色で長さ 6~12cm、先端は尾状に伸びる。花序は肉穂状、偽雌雄異株、付属体は下部でふくらみ、平滑、一度曲がって仏焰苞の外に出、再び曲がって直立し、先端は長く伸びて糸状にたれる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区（大高町大高城址，芹沢 77176, 2001-4-9）、熱田区（熱田神宮，大形 昌 s.n., 1981-4-23）に生育している。他の区にもありそうだが、現在のところ確認されていない。

【県内の分布】

低山地や丘陵地に点在する。尾張では名古屋市のほか瀬戸尾張旭、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多に分布しているが、平野部にはない。

【国内の分布】

北海道南部、本州、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

平地や丘陵地の常緑樹林の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの区でも、僅かに残存した保全緑地に小群落がある。緑地自体は今後も維持されると思われるが、公園整備によって失われるおそれがある。変わった形の植物であるため、園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

生育地が限られているので、公園整備の際に群落を破壊しないよう注意する必要がある。園芸目的の採取に関しては、愛知県全体としては特に希少な植物ではなく、わざわざ盗掘に来る人がいるとは想定しにくい。行きずりの採取が問題で、「自然はみんなのもの、個人の庭に取り込んではいけない」という意識を多くの市民が持つことが重要である。

【特記事項】

和名は、糸状に伸びた付属体先端部を浦島太郎の釣糸と見たからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.200, 平草 I p.131.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

イトトリゲモ *Najas gracillima* (A. Braun ex Engelm.) Magnus

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。水のきれいなため池や谷戸田に生育する植物で、名古屋市では生育可能な場所が激減している。

【形態】

1年生の水草。茎は細く、よく分枝し、長さ10~30cmになるが、折れやすい。葉は各節に5個ずつ輪生し、細く線形、長さ1.2~2cm、幅約0.2mm、辺縁には細鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は切形となる。花期は6~9月、雌雄同株で、各節に1個の雄花と2個の雌花がつく。果実は各節に2個並んでつき、それぞれ1個の種子がある。種子は長楕円形で長さ約2mm、幅約0.5mm、表面に縦に長い格子模様がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味才井戸流付近、村松正雄 26185, 2011-10-2; 下志段味長廻間、村松正雄 18557, 1999-7-21）、天白区（久方一丁目、渡邊幸子 3572, 1998-8-4）に生育していた。注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。

【県内の分布】

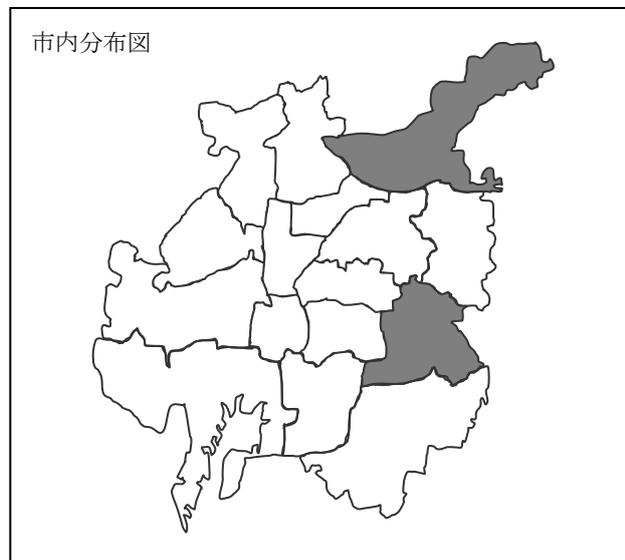
名古屋市のほか、設楽西部、鳳来南部、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原、田原西部、足助、小原、藤岡、豊田東部、岡崎北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、小牧、春日井の18区画で確認されている。今後、他のいくつかの区画でも確認されるものと思われる。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジアに分布し、イタリアで野生化している。



【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養のため池や水田などに生育する沈水植物。愛知県ではあちこちに点在しており、時には小さなため池にたくさん生育していることもある。過去の分布情報が不十分のため、増減の傾向はよくわからないが、ごく近年に限れば強力な除草剤が使用されなくなったためか、多少増加傾向にあるように思われる。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、吉根志段味プール下の調整池と下志段味の湧水がたまった場所に、多量に生育していた。天白区では、久方中学校敷地内の湧水が流れ込む側溝中に、ごく少量が生育していた。いずれもごく最近の状況は確認されていない。

【保全上の留意点】

多量に生育している場所でも、突然消失することがある。水質の維持が必要である。

【特記事項】

日本産トリゲモ類の中では最も繊細で、そのためイトトリゲモと呼ばれる。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧と評価されているが、愛知県全体としては当面絶滅が危惧される状態ではない。

【関連文献】

保草Ⅲpp.408-409, 平草Ⅰp.18, SOS 新版 p.126, 愛知県 p.645.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.53. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.99. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ヒガンバナ科>

ヤマラッキョウ *Allium thunbergii* G. Don**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湿性の草地に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。鱗茎は狭卵形、長さ 2~3cm、古い葉鞘が分解してできた繊維でおおわれる。花茎は高さ 45~80cm、葉はその下部に 3~5 個つき、細い三角柱状、葉鞘部を除いて長さ 30~60cm、幅 2~4mm である。花期は 10~11 月、花茎の先端に球形で直径 3.5~5cm の散形花序をつける。花被片は 6 枚で紅紫色、楕円形で長さ 4~5mm、雄ずいは花被片より長い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 547, 1993-10-9）、緑区（鳴海町笹塚，中島ひろみ 364, 1993-10-20）で採集された標本がある。千種区、天白区でも見ているが、標本はない。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地、丘陵地には比較的多いが、尾張では少なく、名古屋市のほかは豊明東郷、東海知多、半田武豊、美浜南知多で確認されているだけである。

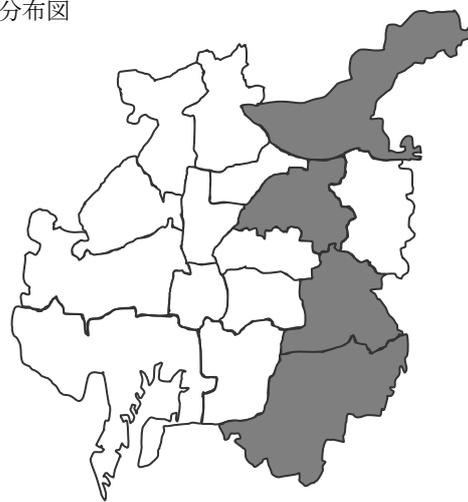
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の湿った草地に生育する。愛知県では湧水湿地周辺に多いが、そうでない場所にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

ところどころに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。

【保全上の留意点】

里草地の保全が必要である。

【関連文献】

保草Ⅲp.125, 平草 I p.36.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イグサ科>

ヒメコウガイゼキショウ *Juncus bufonius* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。愛知県では出現頻度の少ない植物で、名古屋市でも生育地が少ない。

【形態】

1年生草本。茎は束生し、細い円筒状、高さ10~30cmになる。葉は細く扁平で上面に溝があり、鞘部には葉耳がない。花期は6~9月、茎の先端にまばらな集散花序をつけ、最下の苞は葉状で花序よりはるかに短い。花は長さ5~6mm、花被片は6枚、披針形、外片は長さ4~5mm、内片はやや短く、先端は鋭尖頭、中肋部分は淡緑色で、辺縁部は広く白い膜質となる。蒴果は長楕円形で、褐色で光沢があり、3室がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（同明町天白川緑地，渡邊幸子 6814, 2014-5-6）に生育している。緑区（大高町水主ヶ池付近，芹沢 77453, 2001-6-23）にも生育していた。守山区上志段味の庄内川対岸（春日井市）には大きな群落がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊川、蒲郡、豊橋南部、田原東部、田原西部、豊田北西部、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、常滑、美浜南知多、春日井、稲沢、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

全世界の暖~温帯に分布する。



【生育地の環境／生態的特性】

湿った砂地、畑地、路傍、休耕田などに生育する。どうと云うことのない場所に生育するが、それでいて出現頻度の少ない植物である。ただし西尾市南部では、春の麦畑の雑草になっている。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では2m×1mほどの範囲に群生していた。緑区では湧水のある攪乱跡地に小群落があったが、その後確認できない。

【保全上の留意点】

不安定な立地に生育することが多い植物なので、現実問題として保全は難しい。しかし注意して探索すれば、他の場所でも確認される可能性は高い。

【特記事項】

比較的小型で目立たず、しかもどこにあるか予想が付きにくい植物なので、調査の際には特に注意が必要である。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、新しい自生地が発見され、評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅲp.162, 平草Ⅰp.67.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

ショウジョウスゲ *Carex blepharicarpa* Franch.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。一般的には山地性の植物で、愛知県では丘陵地に比較的多いが、名古屋市では生育地が限られている。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 10～50cm、3稜があり、基部の葉鞘は褐色で、後に繊維に分解する。葉は細い線形、幅 2～4mm である。果期は 4～5 月、小穂は 2～5 個、互いにやや離れてつき、頂小穂は雄性で棍棒状、長さ 1～3cm、黄褐色、側小穂は雌性で長楕円形、長さ 1～3cm、最下のものには長い柄がある。苞は鞘状で、短い葉身がある。果胞は紡錘形、長さ 4～6mm、脈は目立たず有毛、先端は短い嘴になり、鱗片は広倒卵形、赤褐色である。雌花の柱頭は 3 個である。河岸型は果胞の嘴が長い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（下志段味穴ヶ洞、鳥居ちゑ子 2290, 2003-5-1）、名東区（猪高町上社、半田多美子 3296, 2002-4-19）に生育している。

【県内の分布】

低山地～丘陵地に点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、春日井に生育している。

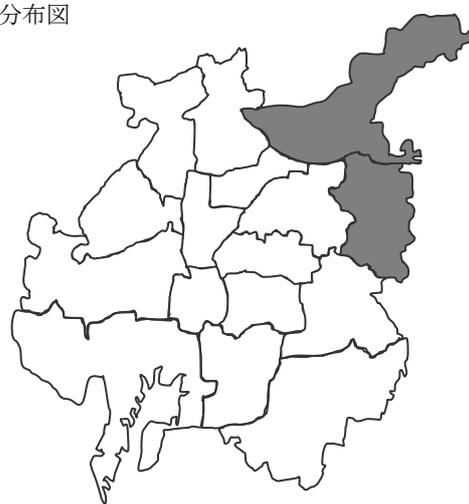
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

一般的には山地から高山にかけての草地に生育するが、愛知県では丘陵地の草地に多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

2ヶ所で確認されているだけだが、注意して探索すれば他の場所でも発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

丘陵地のやせ山的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

2004年版ではツクバスゲ *Carex hirtifructus* Kük.とあわせて評価・記述されている。

【関連文献】

保草Ⅲp.265, 平草Ⅰ pp.160-161.
 吉川純幹. 1957. 日本スゲ属植物図譜 1:92-93. 北陸植物の会, 金沢.
 勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.274. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 カヤツリグサ科>

シオクグ *Carex scabrifolia* Steud.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。塩湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる場所が限られている。

【形態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株にならない。茎は高さ 30～50cm、上部はざらつき、基部の鞘は葉身がなく、一部が暗赤紫色となり、糸網を生じる。花期は 6～7 月、小穂は 3～4 個で、そのうち上部の 2～4 個は雄性、線形、長さ 2～4cm、下部の 1～2 個は上部のものから離れてつき、雌性で長楕円形、長さ 1～2cm、鱗片はさび色で先はとがる。果胞は長楕円形、長さ 6～8mm、無毛、嘴は太く短い。雌花の柱頭は 3 個である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

中川区（下之一色町，渡邊幸子 4654, 2001-5-6, NBC958）、港区（当知町庄内川河口敷，芹沢 77256, 2001-5-6）に生育している。南区加福町にも生育していたが、ここでは絶滅し、標本も残されていない。

【県内の分布】

三河湾沿岸には広く分布しているが、伊勢湾側では塩湿地性植物の生育できそうな場所自体が少なくなっており、本種もどこにでもあるというわけではない。尾張では名古屋市のほか、大府東浦、半田武豊、美浜南知多、海部南部で確認されている。

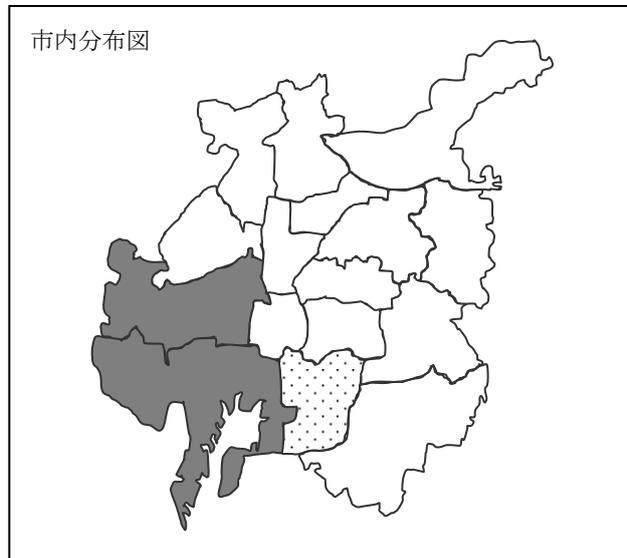
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

河口部などの塩湿地に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川河口部では、個体数も比較的多く、現在のところは生育状態も良好である。南区加福町では貯木場跡地に生育していたが、一般廃棄物最終処分場建設のため埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

庄内川河口部のヨシ原は名古屋市に残された貴重な自然であり、特に注意して保全していく必要がある。

【特記事項】

生育の悪い群落では、雌小穂をほとんどつけないことがある。調査の際には注意を要する。

【関連文献】

保草Ⅲp.298, 平草Ⅰp.151.
吉川純幹. 1958. 日本スゲ属植物図譜 2:266-267. 北陸植物の会, 金沢.
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.345. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ヒメコヌカグサ *Agrostis valvata* Steud.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。愛知県の丘陵地ではやや普通に見られる植物であるが、名古屋市に限れば生育できる場所が激減している。

【形態】

繊細な多年生草本。小さい株になることが多い。稈は高さ 40~70cm、鮮緑色で平滑、葉は互生し、線形で柔らかく、長さ 7~15cm、幅 3~5mm、葉舌は長さ 1~3mm である。花期は 5~6 月、円錐花序は長さ 10~15cm、枝は斜めに開出し、まばらに小穂をつける。小穂は長さ 2.5~3mm、淡緑色でときに少し紫色をおびる。苞穎は広披針形で内折し、鋭頭で 1 脈がある。小花は 1 個、淡色、苞穎と同長か、それより少し長い。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（吉根太鼓ヶ根，芹沢 77325, 2001-5-20; 大森八竜，鳥居ちゑ子 1754, 2000-5-21）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、設楽西部、鳳来北西部、作手、新城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、稲武、足助、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、幸田、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地周辺の、林内や林縁に生育している。沢沿いの林道わきや、谷戸田周辺の湿った里草に生育していることもある。全国的には減少傾向の著しい植物であるが、愛知県の丘陵地ではむしろ普通種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

大森、吉根、上志段味などの丘陵地にあるが、開発圧が高いため、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

全国で準絶滅危惧という評価は、愛知県とその周辺に多いことに影響されていると思われる。そのため名古屋市においても、それなりに保全上の配慮を要する。全国的な状況を知らない人からは、サクラバハシノキと同様「こんなものまで保全していたらきりが無い」という意見が出てきそうだが、裏を返せば、名古屋市やその周辺の丘陵地の自然はかくも貴重だということである。

【特記事項】

ヤマヌカボに似ているが、小穂が花序の枝全体につき、小花が苞穎と同長か、それより少し長いことで区別できる。小穂が紫色を帯びるものは、緑色のものに比べ、全体にややしっかりした形をしている。

【関連文献】

保草Ⅲp.352, 平草Ⅰp.125, SOS 旧版 p.99, 愛知県 p.646.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.308-309. 平凡社, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

アシカキ *Leersia japonica* Makino**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
県内分布 1、総点 11。以前はやっかいな水田雑草であったが、減
少傾向が著しい。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

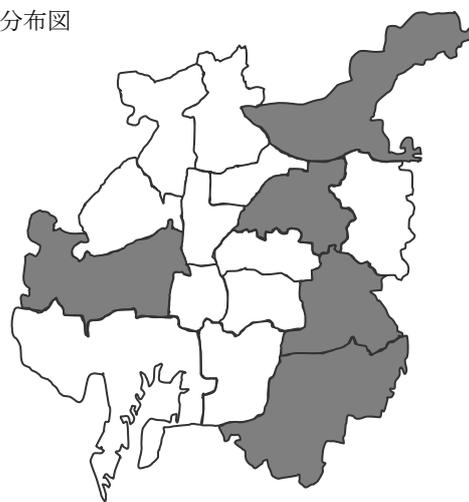
【形態】

多年生草本。稈は長く匍匐し、節から根を出し、先端は立ち上がって高さ 30~45cm になる。節
には下向きの剛毛が密生する。葉身は長さ 7~15cm、幅 5~10mm になる。花期は 8~10 月、花序
は直立して長さ 6~12cm、花序の枝は 7~10 本で斜上し、長さ 2.5~6cm になり、6~12 個の小穂
をつける。小穂は扁平で枝に密着し、長さ 5~6mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根平池，鳥居ちる子 2665，
2008-10-27，花なし）、千種区（田代町東山新
池，飯尾俊介 s.n.，2009-8-23，NBC297）、天白
区（天白町島田大根池，高木順夫 20491，
2011-10-27，NBC6 など）、緑区（大高町下瀬
木，渡邊幸子 475，1992-8-9）、中川区（水里，高
木順夫 324，1992-8-20）に生育している。

市内分布図

**【県内の分布】**

平野部や丘陵地に分布しているが、多いも
のではない。尾張では名古屋市のほか長久手
日進、江南丹羽、春日井、一宮西部の 4 区画
で記録されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸や水田の畔などの水湿地に生育する。よく繁茂するが、開花しない集団が多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

耕地整理とそれに伴う乾田化により減少した。似た環境に生育する帰化植物のキシユウズメノ
ヒエにも圧迫されている。

【保全上の留意点】

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここ
まで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必
要がある。

【特記事項】

和名は足掻きで、ざらついた茎葉が農作業中の人の足を傷つけるからである。

【関連文献】

保草Ⅲp.342，平草Ⅰp.109.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.82-83. 平凡社，東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

スズメノコビエ *Paspalum scrobiculatum* L. var. *orbiculare* (G.Forst.) Hack.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
 県内分布 1、総点 11。ため池の周辺などに生育する植物で、名古屋
 市では減少傾向が著しい。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。稈は束生してほぼ直立し、高さ 60～130cm になる。葉は稈の基部に 2 列に並んでつき、少数の茎葉もつき、葉鞘は口部に毛があるほかは無毛、通常赤褐色を帯びる。葉身は線形、長さ 15～50cm、幅 4～8mm である。花期は 9～10 月、花序の枝は 3～6 本で長さ 2.5～6cm、2～3 列に小穂をつける。小穂は楕円形～倒卵形、長さ 2～2.5mm、無毛である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味安田池，芹沢 86526，2010-10-17）、名東区（猪高緑地，芹沢 88041，2012-10-8）、天白区（海老山町，芹沢 77726，2001-10-13）、緑区（鳴海町神の倉，渡邊幸子 4937，2001-10-13，NBC1005）に生育している。

【県内の分布】

尾張には点在しており、名古屋市のほか長久手日進、豊明東郷、半田武豊、犬山、春日井、一宮東部、一宮西部の 7 区画で記録されているが、東三河、西三河では少ない。

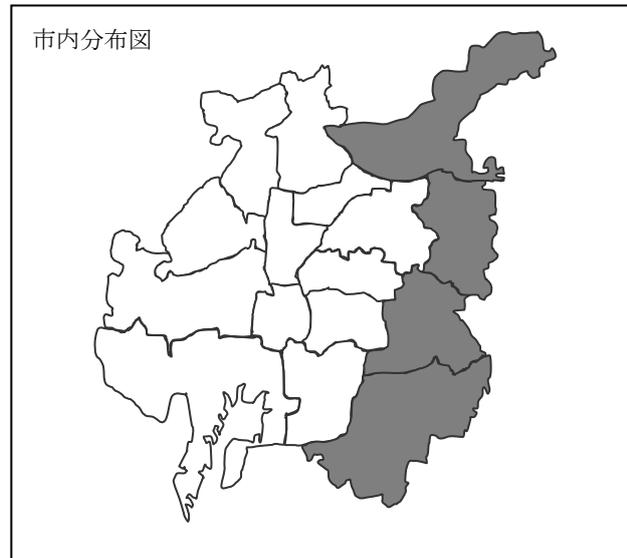
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

旧世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

愛知県ではため池の岸のやや裸地状の場所に多いが、河川敷や湧水湿地の周辺部にも見られる。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かで見ているが、それほど多いものではない。ため池の富栄養化に伴う大形草本の繁茂、あるいは開発等によるため池そのものの消失により減少している。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

スズメノヒエからは、全体的に直立し、葉がほとんど無毛、小穂がやや小さいことで区別できる。

【関連文献】

保草Ⅲp.374，平草Ⅰp.98.
 長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.594-595. 平凡社，東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 イネ科>

ウキシバ *Pseudoraphis ukishiba* Ohwi

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。ため池などの水中や水辺に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が急激に減少している。

【形態】

多年生で浮葉性の水草。稈は束生し、水中を伸びて長さ 1m に達し、枝は斜上して水面に葉を浮かべる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 3~5cm、幅 2~4mm、粉緑色をおび、無毛、葉鞘は葉身とほぼ同長で、小さい葉舌がある。花期は 8~9 月、花序は長さ 3~6cm、総状、基部は葉鞘の中にあって多数の枝を出し、その枝が中軸に沿って立つため、見かけ上長楕円形となり、開花時には水上に出るが、花後水中に沈む。小穂は各枝に 1 個つき、披針形で長さ 4~5mm、枝に圧着し、雄性第 1 小花と雌性の第 2 小花からなり、小穂の先の枝は芒状となるが、小花自体は無芒である。陸生型は茎が短く、小さいマット状になる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味大村池、芹沢 88984, 2013-10-5; 下志段味穴が洞、鳥居ちゑ子 693, 1994-8-28）、天白区（天白町平針荒池、渡邊幸子 4854, 2001-9-8, NBC989）、緑区（鳴海町笹塚、渡邊幸子 1923, 1994-10-9）に生育している。

【県内の分布】

尾張とそれに接した西三河の、平野部に接した浅い丘陵地のため池には比較的多く見られるが、それ以外では極めて稀である。県内では名古屋市のほか、豊川、田原東部、田原西部、豊田北西部、豊田南西部、岡崎南部、刈谷知立、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、半田武豊、常滑、犬山、春日井で確認されている。豊橋北部で採集された標本もある。

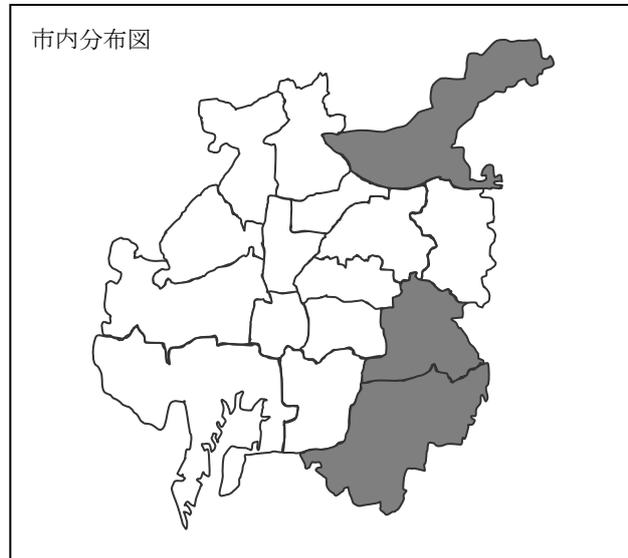
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

池沼の水中に生育するが、干上がった岸などに生育することもある。生育地は、極めてというほどではなくてもそれなりに水のきれいなため池に限られている。

【現在の生育状況／減少の要因】

まだいくつかのため池に生育しているが、開発圧力の高い地域であるだけに、ため池の埋立や改修、水の汚れなどにより、生育できる場所は急激に減少している。特に、浮葉型は見る機会が減少している。

【保全上の留意点】

ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

イネ科には湿地性のものは多いが、水草になるものは少ない。

【関連文献】

保草Ⅲp.370, 平草Ⅰp.101, SOS旧版p.100, SOS新版p.118, 愛知県p.608.
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 pp.634-635. 平凡社, 東京.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.68. 文一総合出版, 東京.

(執筆 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 マンサク科>

マンサク *Hamamelis japonica* Sieb. et Zucc.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。山地～丘陵地に多い樹木であったが、名古屋市を含む愛知県全域で、原因不明の病害により激減している。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の亜高木または高木。高さ 5～10m になる。葉は互生し、長さ 5～15mm の柄があり、葉身はひし形状円形、倒卵円形または倒卵状楕円形、長さ 5～10cm、幅 3.5～7cm、先端は鈍頭のものから短く尾状に尖るものまで変異があり、基部はゆがんだ浅い心形、両面に星状毛が散生し、側脈は 6～7 本で平行に斜上し、波状の鋸歯がある。花期は 3～4 月、早春葉が展開する前に咲き、花弁は黄色、線形で長さ 10～13mm である。果実は楕円形、長さ 10～13mm、種子は黒色で光沢がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（吉根太鼓ケ根、芹沢 88396、2013-5-15 など）、天白区（高島、渡邊 5122、2002-6-20、NBC1020）に生育している。

【県内の分布】

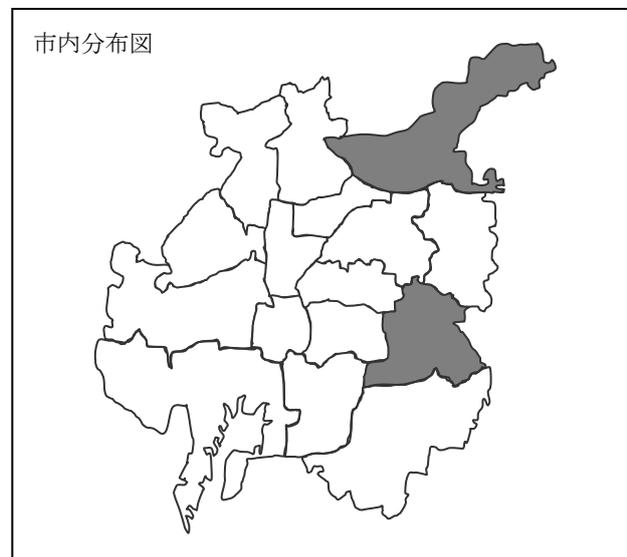
県内の山地～丘陵地には普通に見られ、少し前までは早春の山が黄色になるくらい群生している場所も少なくなかった。尾張では瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、小牧、春日井に生育しているが、平野部にはなく、知多半島でも確認されていない。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。北海道南西部から本州日本海側にかけては、変種のマルバマンサク *var. obtusata* Matsum. が分布している。

【世界の分布】

日本固有種。

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の二次林の構成種である。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区に 2 ヶ所小群落があるほか、天白区の島田緑地にも数株が生育している。もともとはあちこちに生育していたが、丘陵地の開発により、現在の状態に至ったものと思われる。しかし近年に限れば、病害による枯死が減少の主要因である。芹沢 88396 はあたりに成木が見当たらず、やむを得ず幼木の枝を採取したものである。

【保全上の留意点】

何はともあれ、病害の原因を解明する必要がある。

【特記事項】

和名は、春早く「まず咲く」からだとも言われるし、枝いっぱいにつけるからだとも言われる。本種が減少した結果、本種を食樹とするウラクロシジミも減少している。

【関連文献】

保木 II p.133, 平木 I p.155.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 バラ科>

ワタゲカマツカ *Pourthiaea villosa* (Thunb.) Decne.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 11。愛知県の丘陵地を特徴づける植物の一つである。

【形態】

落葉性の低木。高さは4m程になる。若枝はカマツカより太い。葉は互生し、長さ2~6mmの柄があり、葉身は倒卵形~長倒卵形、長さ5~10cm、幅2~5cm、先端は鋭頭または円頭で短く尖り、基部はくさび形、厚い洋紙質、辺縁に細かくやや鋭い鋸歯がある。葉柄、葉の両面、花序、がくの外面などに白色の綿毛が密生またはやや密生する。花期は5月、枝先に一部複生する散房花序をつけ、花は直径1cmくらい、花弁は5枚で白色である。果実は楕円形で長さ6~8mm、赤熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（小幡北山、太田由美子 91, 1993-5-13）、千種区（田代町平和公園、広部栄 266, 1994-5-8）、天白区（天白町山田、渡邊幸子 5380, 2003-6-14）、緑区（鳴海町諸ノ木、渡邊幸子 3353, 1998-5-3）に生育している。

【県内の分布】

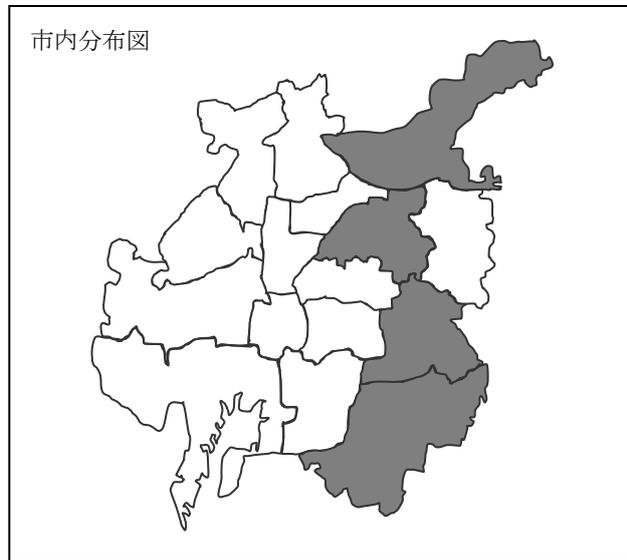
丘陵地に点在しており、名古屋市のほか、田原東部、田原西部、藤岡、豊田北西部、みよし、岡崎北部、岡崎南部、幸田、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

【国内の分布】

不明。カマツカの毛の多い型は、北海道、本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

カマツカの毛の多い型は、日本および朝鮮半島に分布する。



【生育地の環境／生態的特性】

やせた丘陵地の林縁などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市内でもまだところどころに生育しているが、丘陵地の開発に伴い、次第に減少している。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地は、点在する湧水湿地以外の場所でも本種やモンゴリナラ、オキアガリネズ、ミカワツツジなど特徴的な樹木が生育しており、また森林の発達が悪いためウンヌケをはじめとする多くの草地性植物が残存している。湿地以外の場所も保全上重要であることを認識する必要がある。

【特記事項】

ここでワタゲカマツカとした植物は、単にカマツカの毛の多い型ではなく、カマツカに比べ枝が太く、葉は厚くて大きく、倒卵形になる傾向が著しく、果実も大きいものである。東海地方で観察する限りではやせた丘陵地を特徴づける植物であるが、全国的な分布についてはまだ確認していない。

【関連文献】

保木Ⅱp.26, 平木Ⅰp.223.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 イラクサ科>

コアカソ *Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の半低木。茎の下部は木質化し、高さ1~2mになる。葉は対生し、長さ1~5cmの柄があり、葉身は菱状卵形、長さ3.5~9cm、幅2.5~5.5cm、基部はくさび形、辺縁には基部近くを除き粗い鋭鋸歯があり、先端は尾状に細く長く伸び、尾状部分は長さ1~3cm、幅2~5mmでその基部は多少なりともくびれる。花期は8~9月、雌花序は細く、葉腋から出て長さ6~15cmになる。雄花序はつけない。ただし名古屋市産の標本のうち守山区と天白区のもの普通のコアカソだが緑区のものややヤブマオに似た形態をしており、葉は卵形、やや質が厚く、基部は広いくさび形~切形、先端尾状部は長さ1~3cm、幅4~7mm、基部はくびれない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（土原一丁目、中島ひろみ 560, 1996-9-5）、緑区（鳴海町滝ノ水緑地、芹沢 89065, 2013-10-16）に生育している。守山区（小幡北山、太田由美子 44, 1992-8-30）で採集された標本もある。

【県内の分布】

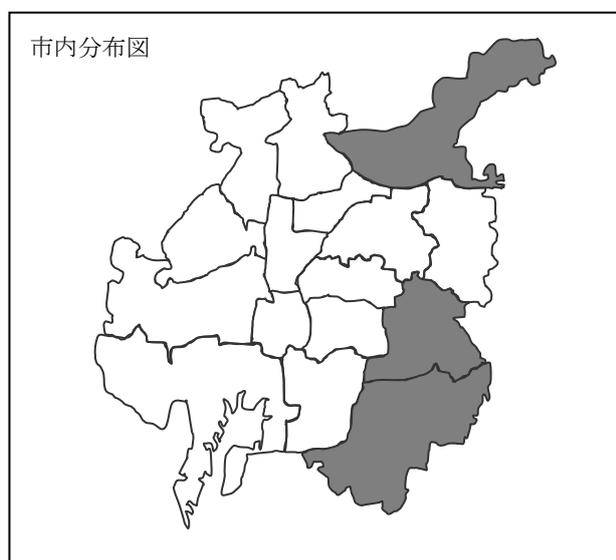
山地ではごく普通に見られる植物であるが、丘陵地では少ない。尾張では、名古屋市のほか瀬戸尾張旭、犬山、春日井の3区画で記録されているだけである。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

**【生育地の環境／生態的特性】**

通常は沢沿いの林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区では、丘陵地の道路わきに2~3株生育している。緑区では、緑地周辺部のやや人為的な影響がある場所に数株が生育していた。わざわざ植栽されるような植物とは思えないが、非意図的に移入されたものである可能性は否定しきれない。守山区では最近の状況が確認されていない。

【保全上の留意点】

レッドリストはその地域で絶滅が危惧される生物のリストであって、保全を要する種のリストとは必ずしも一致しない。本種のような、名古屋市では希少でも県全体としてはさほど希少でない植物が、それも人為的な影響のある場所に生育している場合、どの程度保全すべきかは議論が分かれるものと思われる。適切な合意形成が必要である。

【特記事項】

基準変種は3倍体で無融合生殖を行うが、変種のコバノコアカソ var. *microphylla* Nakai ex Satake は2倍体で有性生殖を行う。コバノコアカソは愛知県の山地では比較的多く生育しているが、名古屋市では知られていない。

【関連文献】

保草Ⅱp.339, 平草Ⅱp.9.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 カバノキ科>

サクラバハノキ *Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 11。湧水湿地周辺に生育する植物で、愛知県全体では比較的多いが、名古屋市内ではやや少ない。

【形態】

落葉性の小高木～高木。大きいものは高さ 20m に達する。樹皮には目玉状の枝の脱落痕がある。葉は互生し、長さ 1～2.5cm の柄があり、葉身は卵状楕円形～長楕円形、長さ 5～9cm、幅 2～5cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広いくさび形～浅い心形、辺縁には細鋸歯があり、側脈は 9～12 対あって下面に隆起する。葉は乾くと赤褐色になる。花期は葉が展開する前の 2～3 月、雄花序は尾状で、枝の先端に 4～5 個下垂し、雌花序はその下方に 3～5 個つく。果穂は楕円形、長さ 1.5～2cm、果実は扁平で、長さ 2.5～3.5mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味稲堀田新田、鳥居ちゑ子 2459, 2005-7-25 など）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来南部、作手、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、下山、小原、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎南部、幸田、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井で確認されている。県内では生育地も個体数も多いが、作手を除けば三河山地にはなく、平野部にも見られない。知多半島でも現在のところ確認されていない。

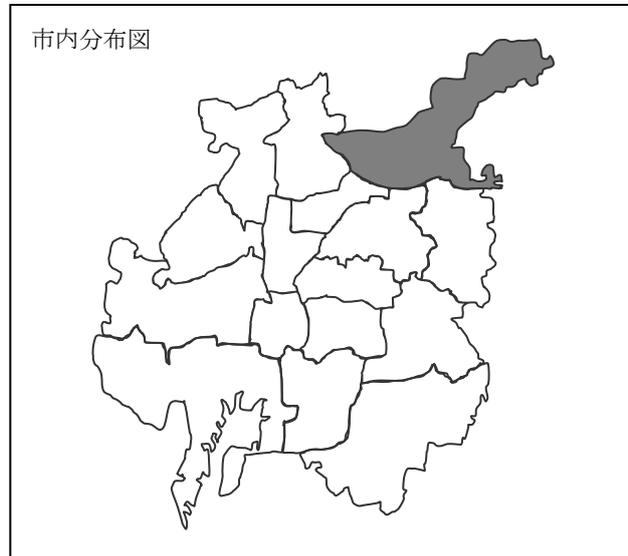
【国内の分布】

本州（茨城県、新潟県以西）および九州（宮城県）。

【世界の分布】

日本、中国大陸南東部。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湧水湿地の周辺や、その下流の沢沿いに生育する。沢沿いのものは幹が直立し高木になるが、湿地周辺のものあまり大きくならないことが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では点在するが、丘陵地の開発により減少している。その一方で開発されていない場所では、森林化の進行により、後継樹が生育できる機会が減少している。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全することが必要である。現実問題としてはなかなか困難であるが、本来ならば崩壊地などができた時には後継樹の生育地を確保するため、そのまま放置しておくことが望ましい。

【特記事項】

全国的に見れば希少な樹木で、国レベルで準絶滅危惧という評価は愛知県やその周辺に多いことに影響されていると思われる。

【関連文献】

保木 II p.287, 平木 I p.55, SOS 旧版 p45, SOS 新版 p.110, 愛知県 p.626.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 スミレ科>

ケイリュウタチツボスミレ *Viola grypoceras* A.Gray var. *ripensis* N.Yamada et M.Okamoto**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、
 県内分布 1、総点 11。中流域の川岸に生育する植物で、名古屋市
 では生育可能な場所が局限されている。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は束生し、花時に高さ 5~10cm である。葉は根出または茎上に互生し、根出のものには長く、茎の上部のものには短い柄があり、葉身は三角状広卵形、長さ 1~2cm、基部はほぼ切形、表面にやや光沢がある。花後の茎葉は長三角状卵形で鋭尖頭になる。花期は 4 月、花柄は長さ 3~8cm、花弁は 5 枚で、青紫色、長さ 10~13mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味庄内川、日比野修 4392、
 1998-4-7）に生育している。

【県内の分布】

豊川、矢作川、庄内川、木曾川に生育して
 いる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭
 と犬山で確認されている。春日井にも生育し
 ているはずである。

【国内の分布】

本州。

【世界の分布】

日本固有。種としては日本、朝鮮半島南部、
 台湾、中国大陸に分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

河川中流域の、増水時には冠水するような川岸の岩場に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川中流の溪谷部には連続的に生育しており、その末端がわずかに名古屋市に達している。現在のところ特に減少してはいないが、護岸工事等があれば名古屋市からは容易に消滅してしまう。

【保全上の留意点】

名古屋市内では、他に本種が生育できそうな場所はない。生育地周辺で護岸工事や河川改修工事を行う場合には、配慮が必要である。

【特記事項】

タチツボスミレの溪岸型の変種で、比較的近年になって認識された植物である。葉形はコタチツボスミレに似ているが、花弁が細い。

【関連文献】

いがりまさし、1996。山溪ハンディ図鑑 6 日本のスミレ p.85。山と溪谷社、東京。

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アカバナ科>

ミズユキノシタ *Ludwigia ovalis* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。ため池の周辺などに生育する植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生の水草。茎は分枝しながら地をはい、上部は斜上する。葉は互生、短い葉柄があり、葉身は広卵形～楕円状卵形、長さ 1～2.5cm、全縁。しばしば赤みがかかる。花期は 6～10 月、直径 4～7mm で目立たない花を葉腋に付ける。花被は淡黄緑色をした三角形の萼裂片 4 個からなり、花弁はない。水中では閉鎖花を付ける。果実は楕円状球形で長さ 3～5mm、萼片が先端に残る。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（牧野ヶ池緑地，鳥居ちゑ子 2004, 2001-7-30; 猪高緑地，中村 肇 194, 2012-10-2, NBC1314）に生育している。注意して探索すれば、他の場所でも確認できるものと思われる。

【県内の分布】

丘陵地に点在するが、多いものではない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、半田武豊、犬山、春日井で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川、水路、湿原などの水中や湿地に生育する沈水～湿性植物。

【現在の生育状況／減少の要因】

牧野ヶ池緑地では個体数が多かったが、水質汚濁などにより減少傾向にある。猪高緑地では 2012 年まで僅かに生育が確認されていたが、2013 年以降は確認できない。

【保全上の留意点】

緑地管理を目的とした施肥や除草剤散布だけでなく、野鳥への給餌などによる水質汚濁を防ぐ必要がある。また、ため池改修の際には慎重な配慮が必要である。水際に生える目立たない植物であることから、踏圧による影響も懸念される。

【特記事項】

花弁がないため花が目立たず、何かの芽生えと誤認する可能性もある。調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱ pp.43-44, 平草Ⅱ p.267.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.132. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.254. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タデ科>

サクラタデ *Persicaria conspicua* (Nakai) Nakai

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。低湿地性の植物で、名古屋市では生育できそうな場所が激減している。

【形態】

多年生草本。地下に匍匐枝を出す。茎は直立し、多少枝を分け、高さ 50～100cm になる。葉は短い柄があり、葉身は披針形、長さ 7～13cm、両端は鋭形、托葉鞘は短い筒形で、縁には長さが筒部の 1/2～2/3 の剛毛がある。花期は 8～10 月。雌雄異株で、花は総状花序にやや密につき、花被は長さ約 3.5～5mm、淡紅色、5 裂して腺点があり、そう果は 3 稜形である。

【分布の概要】

【市内の分布】

花のやや小さいヒメサクラタデと呼ばれる型が、千種区（田代町、広部 栄 93, 1992-9-23）、天白区（元八事五丁目、渡邊幸子 5841, 2008-10-2; 天白町平針黒石、中島ひろみ 921, 2013-10-18）、緑区（大高町、渡邊幸子 556, 1992-9-10）、北区（喜惣治大山川沿い、福岡義洋 4303, 1998-10-18）、西区（中小田井庄内緑地、鳥居ちゑ子 2758, 2009-10-17）に生育している。

【県内の分布】

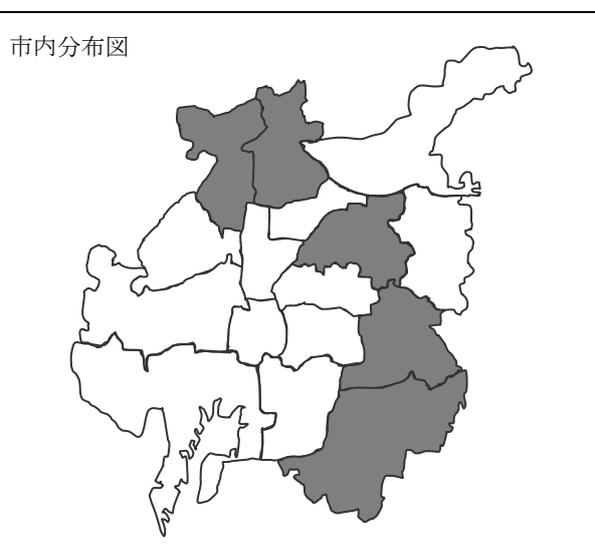
愛知県の平野部には比較的多く見られるが、その多くはヒメサクラタデの型である。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、豊明東郷、東海知多、美浜南知多、江南丹羽、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。



【生育地の環境／生態的特性】

低地水辺の湿った草地に生育する。休耕田に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

天白区平針黒石には比較的多いが、他は小群落である。緑区では大高町の水田のあぜに数株が生育していたが、最近の状況は確認されていない。千種区も最近の状況は不明である。

【保全上の留意点】

平野部の湿田や未整理耕地は、従来の行政の中では重点的な「退治目標」であった。しかしここまで少なくなってしまうと、今後は旧来の農村景観という文化財的な意味を含めて、保全を図る必要がある。

【特記事項】

和名は桜タデで、同属の他の種に比べ花被が大きく淡紅色であることによる。狭義のサクラタデとヒメサクラタデの関係については、今後更に検討を要する。2014年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の情報集約により評価が変更された。

【関連文献】

保草Ⅱp.308, 平草Ⅱp.22.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 モウセンゴケ科>

モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* L.

【選定理由】
 個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、
 県内分布 1、総点 11。代表的な食虫植物で、名古屋市では生育で
 きる環境が急激に減少している。

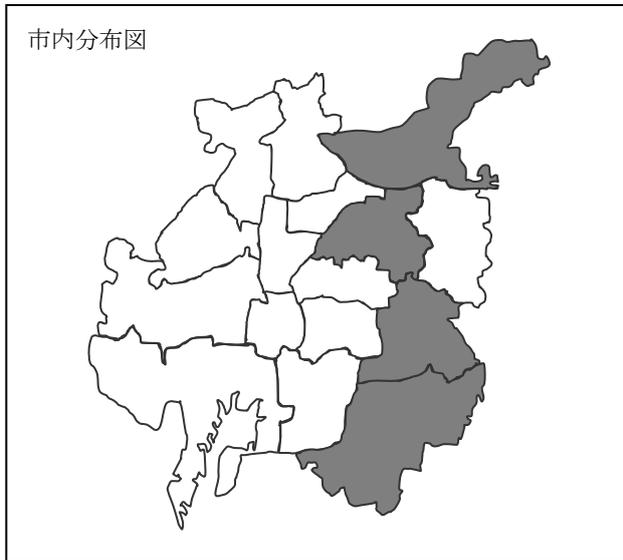
カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】
 食虫性の多年生草本。葉は根生し、長さ3~8cmの柄があり、葉身は倒卵状円形、長さ7~10mm、基部は柄に流れ、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための腺毛がある。花期は6~8月、高さ10~30cmの花茎の上部に総状花序をつけ、花序の先端は渦巻き状に巻く。花は5~20個が花序の片側につき、花弁は長さ4~6mm、通常白色であるが、稀に淡紅色のものもある。

【分布の概要】

【市内の分布】
 守山区（上志段味東谷、鳥居ちゑ子 407, 1993-7-4 など）、千種区（田代町平和公園、鳥居ちゑ子 2132, 2002-6-12 など）、天白区（土原、中島ひろみ 134, 1992-6-16）、緑区（大高緑地、渡邊幸子 5104, 2002-6-8 など）に生育している。



【県内の分布】
 愛知県では比較的多い植物で、平野部を除くほぼ全域に分布している。尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

【国内の分布】
 北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】
 北半球の亜寒帯~温帯に広く分布する。

【生育地の環境/生態的特性】
 温帯性の植物で、日当りのよい湧水湿地や、水のきれいなため池の周辺などに生育する。トウカイコモウセンゴケに比べて、より水位の高い場所に生育している。

【現在の生育状況/減少の要因】
 まだ何ヶ所かに見られるが、丘陵地の開発に伴い、生育できる環境は激減している。湿地の乾燥化によっても、影響を受けやすい。また、湿地に立ち入る観察者が増加するにつれ、踏み荒らしによる影響も大きくなっている。

【保全上の留意点】
 名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

【特記事項】
 トウカイコモウセンゴケ *D. tokaiensis* (Komiya et C. Shibata) T. Nakam. et K. Ueda は本種とコモウセンゴケの交雑に由来すると推定される 6 倍体種で、市内にはまだ比較的多く残存しており、準固有種であることを考慮しても現状では、準絶滅危惧には該当しない。しかし保全上は、それなりに重要な植物である。

【関連文献】
 保草Ⅱp.168, 平草Ⅱp.120.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ナデシコ科>

カワラナデシコ *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。草地性の植物で、名古屋市においては減少傾向が著しい。集団数階級は、すでに3になっているかもしれない。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

多年生草本。茎は基部で分岐して直立し、高さ 50～80cm、上部でも枝を分ける。葉は対生し、線形～披針形、長さ 3～9cm、粉白色を帯び、基部は茎を抱く。花期は 7～9 月、花は枝先に数個がまばらにつき、苞は 3～4 対、がくは円筒形で、長さ 3～4cm である。花弁は淡紅色、舷部は深裂し、下部に深紅褐色のひげ状の毛がある。種子は円形で扁平、黒色、直径約 2mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味森林公園，芹沢 76848, 2000-7-8）、緑区（鳴海町諸ノ木，岡本沙矢香 406, 2001-7-25）に生育する。中村区（宿跡町，鶴岡佐知子 38, 1992-6-1）で採集された標本もある。

【県内の分布】

県内に広く分布し、尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、大府東浦、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井、岩倉西春日井、津島愛西で確認されている。ただし平野部での生育地は、河川堤防などに限られる。

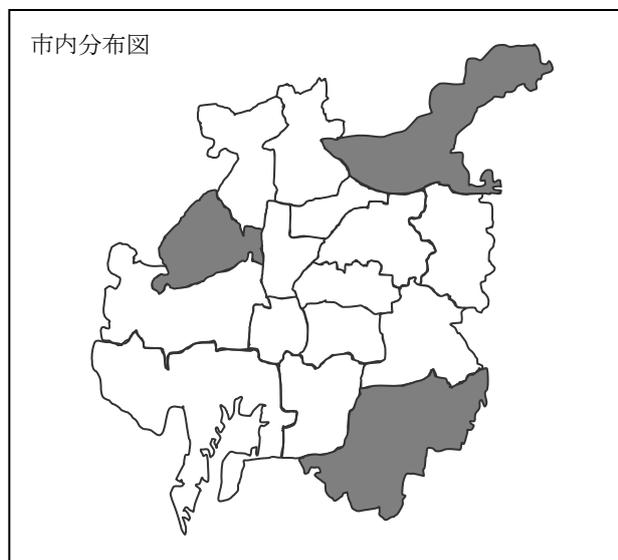
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

日当りのよい草地に生育する。里草地の代表的な植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では愛知用水沿いの草地に多かったが、改修により激減した。現在でもまだ多少は残存しているが、個体数の減少に伴い、園芸目的の採取も懸念される状態になっている。中村区（庄内川堤防）では最近の状況が確認されていない。

【保全上の留意点】

定期的な草刈りを継続し、草地状態を維持することが必要である。谷戸田の周辺などに存在していた里草地は、利用の停止とともに遷移が進行しススキなどの大型草本が密生したり陽性低木が侵入したりして、草地性植物が生育できる状況が失われている。遷移の進行自体は自然現象であるが、草地性植物の本来の生育地である風衝草地などがほとんど失われている現状では、適切な人為的管理を継続し、そのような植物の生育地を確保する必要がある。

【特記事項】

秋の七草の一つとして親しまれている野草である。ただし実際には、夏の花である。

【関連文献】

保草Ⅱp.255, 平草Ⅱp.41.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヒユ科>

ホソバハマアカザ *Atriplex gmelinii* C.A.Mey

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。塩湿地性の性の植物で、名古屋市では生育地に対する開発圧が高い。

【形態】

1年生草本。茎は直立して硬く、枝を分け、高さ40~70cmになる。葉は長さ4~12mmの柄があり、葉身は披針形~線状披針形、長さ5~10cm、質は厚く、辺縁は通常全縁である。花期は10月、花は茎や枝の先端部に多数集まってつき、長さ1.5~6cmの穂状花序をつくる。果時には花序は伸長して長さ10cm以上になり、雌花の2個の苞は大きくなって胞果を包む。種子は円形、直径1.2~1.5mm、黒色で光沢がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

港区（野跡庄内川河川敷、芹沢 83586, 2008-10-2）、南区（加福町一丁目、高木順夫 5624, 1997-11-1）に生育している。

【県内の分布】

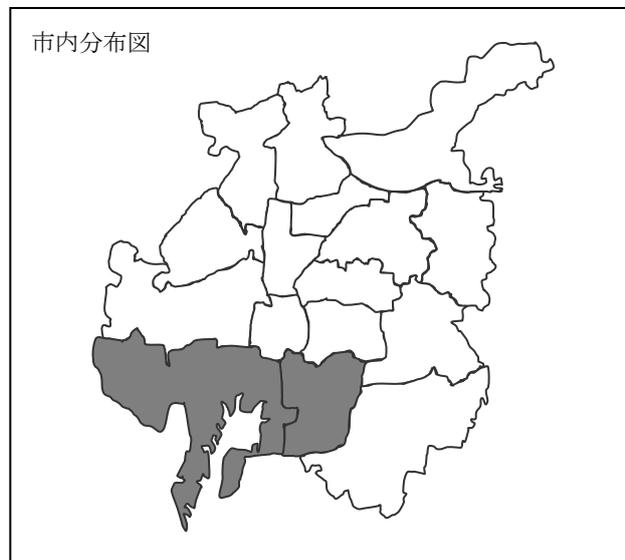
名古屋市のほか、豊橋南部、田原西部、刈谷知立、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、大府東浦、半田武豊、常滑、美浜南知多、海部南部などに生育している。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

アジア東北部。



【生育地の環境／生態的特性】

塩湿地性の植物であるが、埋立地の浜状の場所、護岸のすき間など、やや自然度の低い場所にも生育している。

【現在の生育状況／減少の要因】

港区では庄内川と日光川の河口部に生育している。南区では加福町にある。高木 5624 が採集された貯木場跡地では埋め立てられてなくなったが、周辺部の川沿いに残存している。本種は他の塩湿地性植物に比べれば二次的に形成された場所にも生育するが、名古屋市ではそのような場所さえも減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

内湾部や河口部は開発圧が極めて高く、注意して自然環境を保全する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.291, 平草Ⅱp.48.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アジサイ科>

コアジサイ *Hydrangea hirta* (Thunb.) Sieb. et Zucc.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。山地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の小低木。幹はよく分枝し、高さ1~1.5mになる。葉は対生し、長さ1.5~4cmの柄があり、葉身は卵形または倒卵形、長さ5~8.5cm、先端は鋭尖形または短い尾状、基部は円形または広いくさび形、辺縁には大きな鋸歯があり、両面に毛を散生する。花期は6~7月。枝先に直径約5cmの複散房状の花序をつける。花は両性で、直径約4mm、淡青色、装飾花はない。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷山，鳥居ちゑ子 905, 1995-6-8）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の低山地には普通に見られるが、丘陵地では少ない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、犬山、小牧、春日井に生育している。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地の林縁や明るい林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市では、唯一の山地状の場所である東谷山に生育している。個体数はそれほど多くないが、よく開花し、生育状態も良好である。守山区中志段味才井戸流にも少数株が生育していた。この場所では刈り払われたためか見かけなくなったが、まだ多少残存しているかもしれない。

【保全上の留意点】

東谷山には、本種以外にも名古屋市ではこの場所にしか見られない植物が多数生育している。湿地周辺については伐採が望まれる場所もあるが、それ以外は攪乱や植栽などを極力回避し、できるだけ現在の自然状態を保全すべきである。

【特記事項】

同属の他種と異なり、装飾花がない。

【関連文献】

保木 II p.117, 平木 I p.170.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ハイノキ科>

クロミノニシゴリ *Symplocos paniculata* (Thunb.) Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、補正+1（準固有）、総点 11。本地域の湧水湿地を特徴づける植物の一つで、市内では次第に減少している。

【形態】

落葉性の低木。高さ5mくらいになり、若枝は紫褐色を帯び、2年枝は灰白色になる。葉は互生し、4~10mmの柄があり、葉身は楕円形~長楕円形、長さ3~9cm、先端は鋭尖頭から鈍頭まで変異があり、両面ともにほとんど無毛、表面は鮮緑色でやや光沢がある。葉縁の鋸歯は低く、時にはほとんど全縁に見える。花期は5~6月。新枝の先の円錐花序に多数の花をつける。花は白色、直径8~10mm、花冠は5裂して平開する。果実は卵球形、長さ6~7mm、黒熟する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（森林公園，芹沢 55323, 1990-5-31; 牛巻竜巻池，高木順夫 21418, 2012-10-10, NBC699; 大森八竜新池，広田由紀子 s.n., 2009-5-24, NBC386）、千種区（茶屋ヶ坂公園，高木順夫 21778, 2013-5-20, NBC708）、名東区（牧野ヶ池緑地，鳥居ちゑ子 2105, 2002-5-18）、天白区（菅田三丁目，伊藤晶子 131, 2003-5-16）、緑区（大高緑地公園，芹沢 89063, 2013-10-16 など）、昭和区（八事本町興正寺，渡邊幸子 5347, 2003-5-23, NBC1035）に生育している。

【県内の分布】

低山地~丘陵地の湿地に広く分布し、作手村にもある。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井に生育している。

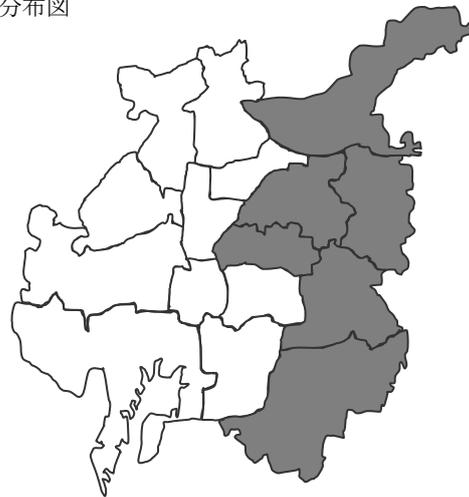
【国内の分布】

本州（中部地方、近畿地方）。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の周辺部や湧水のあるため池の周辺に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市東部の丘陵にはまだ点在しており、個体数も比較的多い。しかし、開発により丘陵地そのものが減少しており、当然のことながら本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

丘陵地の地形を保全すること、ため池を維持し、水質を保全することが必要である。

【特記事項】

サワフタギ *S. chinensis* (Lour.) Druce var. *leucocarpa* (Nakai) Ohwi に似るが、葉縁の鋸歯が低く表面にやや光沢があること、花つきがよいことなどで区別できる。枝いっぱい白花をつけるため、花時にはよく目立つ植物である。

【関連文献】

保草 I p.96, 平草 III p.171.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヒルガオ科>

ネナシカズラ *Cuscuta japonica* Choisy

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。つる性の寄生植物で、名古屋市では生育地が極めて少ない。

【形態】

つる性の1年生寄生植物。初めは地上に生えるが、寄主に巻きつくと根がなくなる。茎は針金状で太さは約1.5mm、無毛で、通常紫褐色の斑点がある。葉は鱗片状で、長さ2mm程度である。花期は8~10月、花はやや穂状に集まってつき、汚白色、花冠は鐘形で、長さ3.5~4mm、5裂する。さく果は楕円状卵形で、長さ約4mm、はじめ花冠をかぶっているが、後に裸出し基部で横裂する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味庄内川堤防、鳥居ちゑ子3077, 2012-8-1; 小幡矢田川河川敷、鳥居ちゑ子3386, 2014-8-30など）に生育している。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、美浜南知多、犬山、江南丹羽、春日井で確認されている。

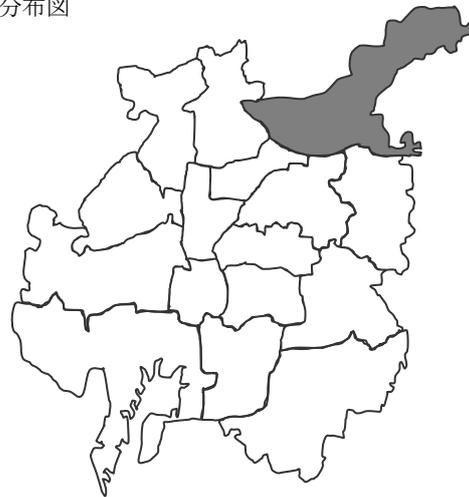
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の日当たりのよい場所に生育し、他の草や低木にからみついて寄生する。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川、矢田川の河川敷と堤防に生育している。ていねいに探せば他の場所でも確認できるかもしれない。

【保全上の留意点】

本種のような植物については、個別的な保全は困難である。河川敷の自然を全体として保全することが重要である。

【関連文献】

保草I p.202, 平草III p.57.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 オオバコ科>

イヌノフグリ *Veronica didyma* Ten. var. *lilacina* (H.Hara) T.Yamaz.**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
 県内分布 1、総点 11。愛知県ではよく探せばあちこちに見られ
 る植物であるが、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	国リスト
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

越年生草本。茎は下部で分枝し、地をはって広がり、長さ 10~25cm になる。葉は茎の下部で対生、上部で互生、有柄、葉身は卵円形で長さ幅ともに 4~11mm、辺縁には数対の先の鈍い鋸歯がある。花期は3~4月、花は茎の上部の葉腋に1個ずつつき、長い柄がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、直径 3~4mm で 4 裂する。果実は蒴果で、中央がくびれ、上部両端は丸く、長さ 2.5~3mm、幅 4~5mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

東区(白壁, 鳥居ちゑ子 2262, 2003-3-28)、
 昭和区(鶴舞町, 奥村富江 38, 1996-3-20)、熱
 田区(熱田神宮, 須賀瑛文 10010, 2013-3-25,
 NBC1193)、中川区(下之一色町庄内川, 芹沢
 77250, 2001-5-6)、港区(大江町, 花井隆晃
 4515, 2010-3-28)に生育している。千種区(覚
 王山, 沢井輝男 s.n., 1934-5-13)で採集された
 標本もある。

【県内の分布】

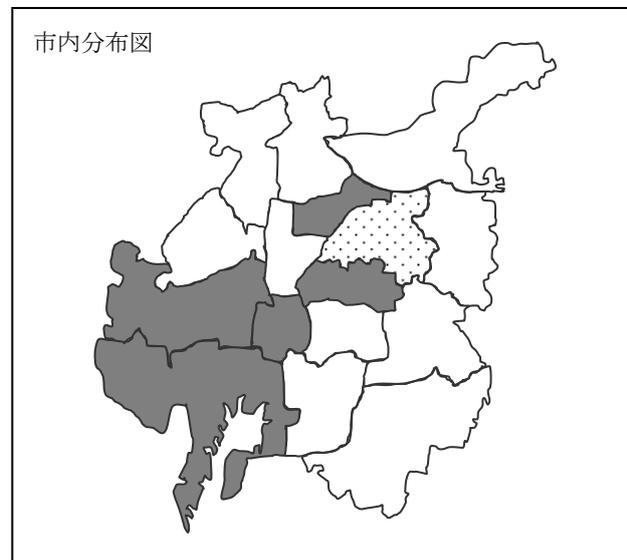
名古屋市のほか、豊根東部、豊根西武、東
 栄、稲武、鳳来北東部、鳳来南部、作手、新
 城、豊川、蒲郡、豊橋北部、豊橋南部、田原
 東部、田原西部、安城、高浜碧南、西尾南部、
 瀬戸尾張旭、常滑、美浜南知多で確認されて
 いる。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

東アジアの温帯~暖帯に分布する。

**【生育地の環境／生態的特性】**

道端や土手などの草地に生育する。一般的に山間部の集落の石垣などに生育していることが多いと認識されているが、愛知県では主として沿海部に点在し、かなり多量に生育している場所もいくつかある。このような例は、調査が進めば全国各地で確認されるのか、それとも愛知県だけの特殊事情か、現時点ではよくわからない。もちろん、あちこちに見られるとはいっても、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比べればはるかに少ない植物である。

【現在の生育状況／減少の要因】

人里に生育している植物なので、土地の造成、石垣の改修など、存続を脅かす要因も多い。東区白壁の自生地は古い住宅地で、2014年には10株ほどが生育していた。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限ればそれほど神経質になる必要はないが、本種が生育し続けることができるようなおちついた住宅環境の保全は是非とも必要なことである。

【特記事項】

植物体はオオイヌノフグリをやや小さくしたような形をしているが、花が小さく、淡紅色である。平野部のものは帰化由来の可能性もあるが、詳細は未検討である。小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もっている。

【関連文献】

保草Ⅰp.143, 平草Ⅲp.111, 愛知県p.637.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 シソ科>

イヌゴマ *Stachys riederi* Cham. var. *intermedia* (Kudô) Kitam.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。やや低湿地性の植物で、名古屋市では生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。細い地下茎がある。茎は四角形で直立し、高さ 40~70cm、下向き短い刺がある。葉は対生し、長さ 2~10mm の短い柄があり、葉身は三角状披針形~楕円状披針形、長さ 4~8cm、先端は鈍頭または鋭頭、裏面の中肋にも短い下向き刺がある。花期は 7~8 月、茎の先端に長さ 3~10cm の穂状の花序をつけ、花冠は淡紅色、長さ 12~15mm、下唇は 3 裂して紅色の細点がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 2341, 2003-7-18, エゾイヌゴマ型）、名東区（牧野ヶ池緑地，鳥居ちゑ子 2154, 2012-7-23）に生育している。西区（清里町新川，鳥居ちゑ子 1418, 1998-7-20）にも生育していたが、その後確認できない。

【県内の分布】

多くはないが平野部から山地まで点在しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、半田武豊、犬山、春日井、岩倉西春日井、一宮西部、稲沢、あま大治、津島愛西で確認されている。

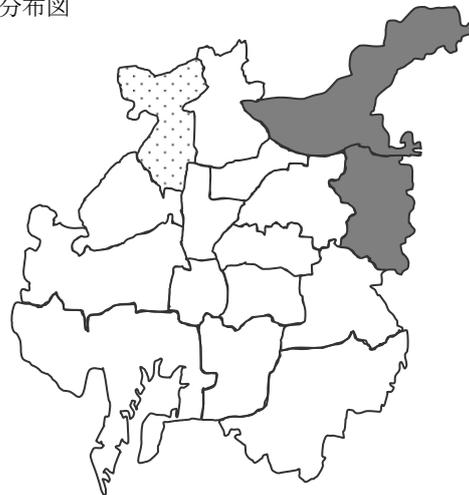
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湿った草地や林縁に生育する。平野部では河川敷などの低湿地に生育することが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

守山区では、上志段味のゴルフ場に接する林縁にやや大きな群落がある。草刈りには耐えて存続しているが、除草剤散布等によって失われるおそれがある。名東区では、ため池の岸に小群落があるが、この場所は池の水の富栄養化により大型の草本が繁茂し、圧迫されて消滅するおそれがある。西区では新地蔵川の河川敷にやや大きな群落があったが、東海豪雨以後確認できない。

【保全上の留意点】

ため池の周辺や河川敷に残存する低湿地的環境を保全することが必要である。

【特記事項】

茎に開出する剛毛があるものをエゾイヌゴマ var. *villosa* (Kudô) H.Hara という。守山区のものはエゾイヌゴマである。

【関連文献】

保草 I p.174, 平草 III p.89.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ハマウツボ科>

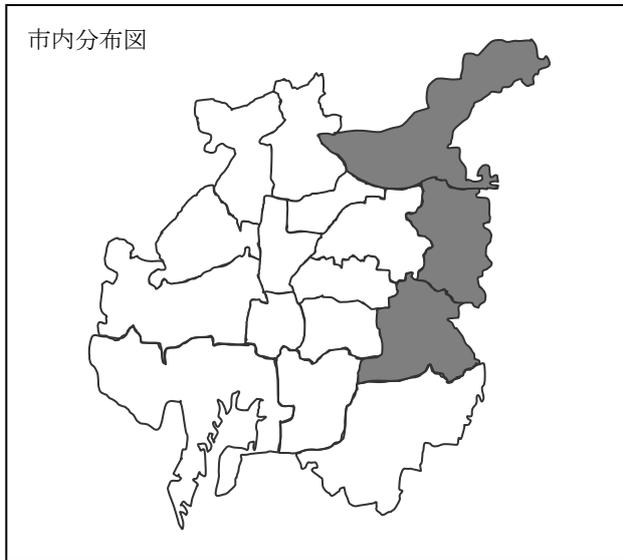
ナンバンギセル *Aeginetia indica* L.

【選定理由】
 個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、
 県内分布 1、総点 11。草地性の寄生植物で、名古屋市では生育で
 きる環境が減少している。

カテゴリー	
名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】
 1 年生の寄生植物。茎は黄褐色でごく短く、ほとんど地上に出ず、鱗片状の葉を数枚つける。花期は8~9月、長さ15~30cmの花柄を数本束生し、その先端に1個の花を横向きにつける。がくは舟形、長さ1.5~3cm、先端はやや嘴状に尖り、淡黄褐色で紅紫色の条がある。花冠は紅紫色、長さ3~5cm、先端は浅く5裂し、裂片は全縁である。

【分布の概要】
【市内の分布】
 守山区（城土町、芹沢 78877, 2003-9-26）、
 名東区（猪高緑地、鳥居ちゑ子 2029, 2001-9-17）、天白区（土原一丁目、中島ひろみ 211, 1992-9-18）に生育している。



【県内の分布】
 丘陵地に点在するが、三河山地では少なく、平野部にも少ない。尾張では名古屋市のほか、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、春日井、小牧、一宮西部などで確認されている。

【国内の分布】
 北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】
 日本から東南アジア、インドにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】
 丘陵地の草地に生育し、ススキなどに寄生する。稀な植物ではないが、ススキ草地ならどこにもあるというわけでもない。

【現在の生育状況／減少の要因】
 名古屋市内でもまだ何ヶ所かに生育しているが、適度に草刈りが行われるススキ草地の減少に伴い、見る機会が少なくなっている。名東区猪高緑地ではコンゴウダケに寄生しており、多い年には30~50本開花するが、不注意な公園整備があれば容易に消滅してしまう。

【保全上の留意点】
 里草地の保全が必要である。経済的な必然性がなくなった現在では困難な課題であるが、緑地公園などの中に、小規模でも定期的に草刈りを行う場所を確保していくべきである。

【特記事項】
 オモイグサ（思草）とも呼ばれる。万葉集にはこの名で出てくる。

【関連文献】
 保草 I p.125, 平草 III p.134.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物

維管束植物 < 種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科 >

イヌタヌキモ *Utricularia australis* R.Br.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。水生の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

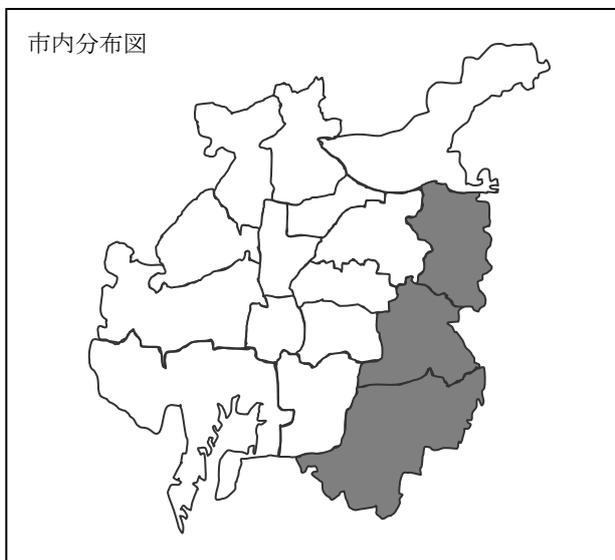
【形態】

多年生の水草。茎は長さ 1m に達するが、細く、切れやすい。葉は互生し、長さ 1.5~4.5cm、基部で 2 本の枝に分かれ、更に何回か二叉状に分枝し、通常多数の捕虫囊をつけるが、ほとんどつけないこともある。花期は 7~9 月、花茎は長さ 10~30cm で、水面から出て直立し、しばしば茎より太く、中実、先端に数個の花をつけ、花柄は長さ 0.5~3cm で、花後下向きに曲がる。花弁は黄色で、直径 1.2~1.5cm、距は下唇より短い。殖芽は夏~秋に茎や側枝の先端につき、長楕円形、長さ 4~10mm、暗褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

名東区（牧野ヶ池，芹沢 88048，2012-10-8 など）、天白区（久方戸笠池，中島ひろみ 917，2008-10-27）、緑区（鳴海町螺貝戸笠池，芹沢 88607，2013-7-20，実質的に上と同所）に生育している。緑区の他の場所（徳重，浜島繁隆 s.n.，1968-7-30；鳴海町滝ノ水，浜島繁隆 1074，1968-10-10）で採集された標本もある。



【県内の分布】

愛知県では比較的多い植物で、名古屋市のほか、津具、鳳来北東部、作手、新城、豊川、豊橋南部、足助、下山、藤岡、豊田東部、豊田北西部、みよし、額田、岡崎北部、岡崎南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、春日井で確認されている。豊根、設楽西部、豊橋北部、あま大治で採集された標本もある。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

アジア、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパ。

【生育地の環境／生態的特性】

貧栄養~腐植栄養の湖沼やため池、水田やその側溝などに生育する浮遊植物。時に池一面に生育していることもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

名古屋市でも以前は多くのため池に生育していたが、改修や埋立て、水質汚濁などにより減少し、現在の状態に追い込まれたと思われる。現存する場所は保全緑地内にあり、当面開発されるおそれは少なく、個体数も比較的多いが、長期的には水質の汚濁により消滅する危険性もある。

【保全上の留意点】

生育地のため池の水質を維持するとともに、改修の際には慎重な配慮が必要である。観賞用に販売されたタヌキモ類の野生逸出と見られる個体が繁茂していることもあり、標本資料を残していく必要がある。

【特記事項】

タヌキモはイヌタヌキモに比べ花茎が中空、殖芽は大きくほぼ球形で暗緑色であることで区別される（角野，1994）が、殖芽のない材料では識別が困難であるという。愛知県産の標本は、角野氏に見てもらったところ、すべてイヌタヌキモとのことであった。

【関連文献】

保草 I p.123, 平草 III p.139, 環境庁 p.531, 愛知県 p.604.
 角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.148. 文一総合出版, 東京.
 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.286. 文一総合出版, 東京.

(執筆 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

ミミカキグサ *Utricularia bifida* L.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湧水湿地に生育する食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形態】

小型の食虫性の多年生草本。地下茎は細い糸状で、まばらに捕虫囊をつける。葉は線形、長さは柄を除いて 3~18mm である。花期は通常 8~10 月、花茎は直立し、高さ 5~15cm、上部に 2~7 個の花をつける。花には長さ 1~3mm の柄があり、花冠は黄色、長さは距を除いて 3.5~6mm、距は長さ 2~5mm で斜め後方に伸び、多少下方に曲がる。がくは花時に長さ 3mm、花後には 4~5mm に伸長して二枚貝状の宿存がくとなり、さく果を包む。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 498，1993-9-6；小幡緑地，芹沢 56207，1990-8-8）、名東区（猪高町上社，芹沢 57792，1990-10-17）、天白区（海老山町，中島ひろみ 813，2002-8-5 など）、緑区（鳴海町水広下，伊藤昭康 557，1990-9-25）に生育している。

【県内の分布】

丘陵地に広く分布しており、低山地にも見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、東海知多、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井で確認されている。

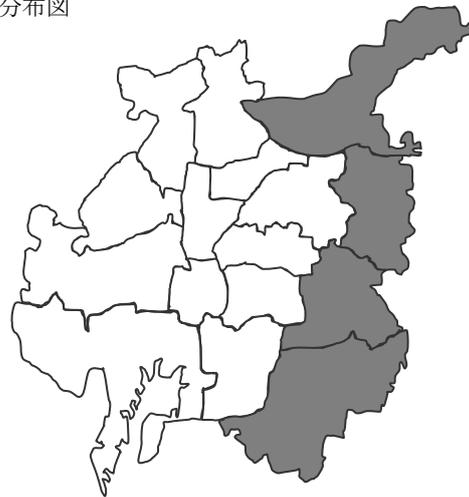
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

湧水湿地やため池の縁の裸地状の場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

あちこちに生育していたが丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。現存する自生地のうちいくつかも、開発により失われるおそれがある。ため池の岸などに生育しているものは、水質が汚濁すれば生育できなくなる。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、本種は湿地中央部の半裸地状の場所に生育しているので、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。森林の伐採は、水収支の回復という点でも重要である。「森林を伐採すると水が枯れる」と心配する人もいるが、実際には話が逆で、森林化が進むと蒸散量が増加し、湿地の水が枯れてしまう。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

【特記事項】

小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もってある。

【関連文献】

保草 I pp.121-122, 平草 III p.138.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 タヌキモ科>

ホザキノミミカキグサ *Utricularia racemosa* Wall.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湧水湿地性の食虫植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形態】

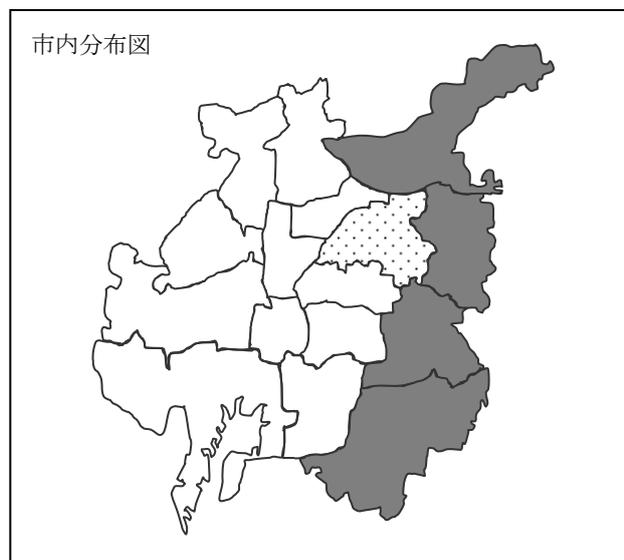
小型の食虫性の多年生草本。地下茎は細い糸状で、地中を横にはう。葉はへら形～長楕円形、長さは柄を除いて3～6mmである。花期は通常8～10月、花茎は直立し、小型のものは高さ3～5cmにすぎないが大型のものは高さ35cm以上になり、上部に1～13個の花をつける。花はほとんど無柄、花冠は淡紫色、長さは距を除いて4～5mm、距は長さ3～6mmで前方に伸びる。がくは花時に長さ2mm前後、花後もそれほど大きくならない。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷，鳥居ちゑ子 499, 1993-9-6; 小幡緑地，芹沢 56208, 1990-8-8）、名東区（猪高町上社，芹沢 57793, 1990-10-17）、天白区（海老山町，中島ひろみ 814, 2002-8-5 など）、緑区（鳴海町水広下池，渡邊幸子 5136, 1996-10-28）に生育している。千種区（覚王山，沢井輝男 s.n., 1932-8-6）で採集された標本もある。

市内分布図



【県内の分布】

丘陵地に広く分布しており、低山地にも見られる。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、豊明東郷、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、小牧、春日井などで確認されているが、平野部には生育していない。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から中国大陸、インドにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地やため池の縁の裸地状の場所に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。現存する自生地のうちいくつかも、開発により失われるおそれがある。ため池の岸などに生育しているものは、水質が汚濁すれば生育できなくなる。観察者やカメラマンによる踏み荒らしも無視できない。

【保全上の留意点】

名古屋市東部を含む愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。また、本種は湿地中央部の半裸地状の場所に生育しているので、湿地が小さい場合は周囲の森林を伐採し、光条件を確保する必要がある。その一方で、攪乱防止のため、湿地自体にはなるべく立ち入らないようにする配慮も必要である。自然に親しむ行為は、それ自体が自然に対する負荷となる。

【特記事項】

日本産ミミカキグサ類の中では最も大きい、それでも小型の植物であるため、個体数は控え目に見積もっている。

【関連文献】

保草 I p.121, 平草 III p.138.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

カワラニンジン *Artemisia apiacea* Hance

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 11。河川敷の低湿地に生育する植物で、名古屋市では生育できる環境が限られている。

【形態】

1年生または越年生の草本。茎は直立し、通常下部では分枝せず、高さ60～150cmになる。根出葉は花時には枯れる。茎葉は互生し、柄はほとんどなく、葉身は2回羽状～一部3回羽状に細く深く深裂し、長さ5～10cm、裂片は幅1～2mm、鋭頭、両面無毛である。花期は8～9月、茎の上半部に多数の頭花が総状につき、全体として円錐花序となる。頭花は緑黄色で下向きにつき、総苞は球形で幅5～6mm、そう果は長さ約1mmである。

【分布の概要】

【市内の分布】

西区（日比津町庄内川、鈴木秀樹 3553, 1996-9-28）、中川区（下之一色町、渡邊幸子 4852, 2001-9-8）、港区（当知町庄内川、芹沢 77566, 2001-9-8）に生育している。

【県内の分布】

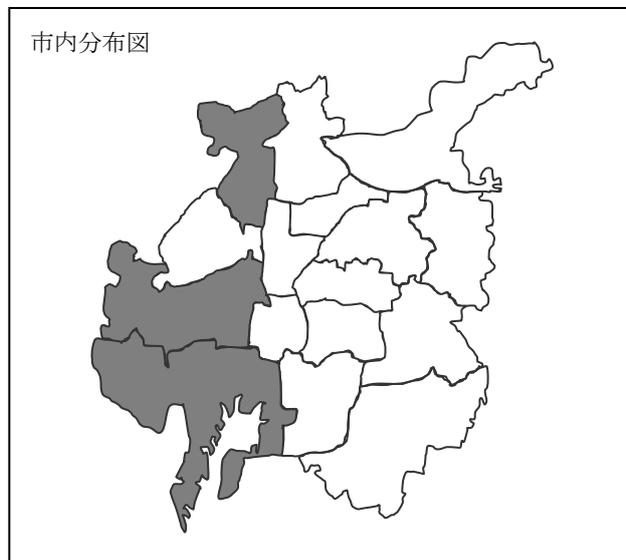
庄内川と木曽川の河川敷に多いが、他の場所でも稀に生育している。尾張では長久手日進、岩倉西春日井、一宮西部、津島愛西、海部南部で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷低湿地のやや攪乱された場所に多く見られる。河川敷以外の荒地などに偶発的に生育することもある。

【現在の生育状況／減少の要因】

庄内川下流部の河川敷に点在しており、場所によっては個体数が多く、現在のところ生育状態も良好である。

【保全上の留意点】

多少の攪乱には絶えることができる植物なので、状況によってはかえって増加する可能性もある。個体レベルでの保全に限れば現状ではそれほど神経質になる必要はないが、河川改修に際して河川敷に低湿地状の場所を残すことが重要である。

【特記事項】

もともとは中国大陸から薬用植物として持ち込まれ、逸出帰化したものという説もある。和名は、葉がニンジンのように細かく切れ込んでいるからである。

【関連文献】

保草 I p.53, 平草 III p.170.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 キク科>

キセルアザミ *Cirsium sieboldii* Miq.

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 11。湿地性の植物で、名古屋市では生育できる環境が減少している。

【形態】

多年生草本。根出葉は多数あって花時にも残存し、翼のある柄があり、長さ 17～50cm、細鋸歯があるだけのものから羽状に深裂するものまであり、両面無毛、辺縁に刺針がある。茎は高さ 60～110cm になり、少数の小型の葉を互生する。花期は 9～10 月、頭花は茎の先端に點頭してつき、直径 2.5～5cm、総苞は幅 2～3cm、総苞片は覆瓦状に並び、開出ししない。花冠は紅紫色で、長さ 17～19mm である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（中志段味寺林、鳥居ちよ子 1140, 1996-9-7）、名東区（猪高緑地、芹沢 78211, 2002-10-4）に生育している。天白区（土原一丁目、中島ひろみ 197, 1992-9-2）、緑区（黒石、浜島繁隆 s.n., 1969-10-10）で採集された標本もある。

【県内の分布】

東三河と西三河の山地には点在する。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭と長久手日進に生育している。

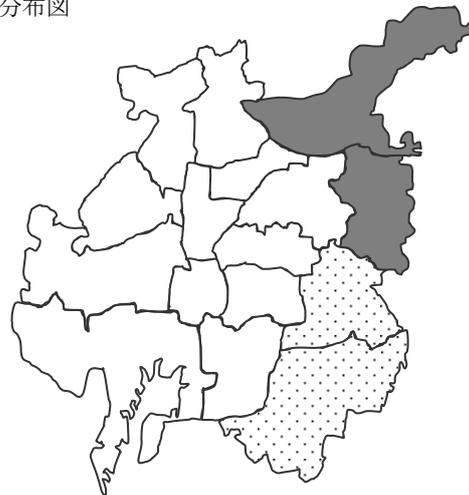
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

山地や丘陵地の湿地に生育する。愛知県の丘陵地では、湧水湿地下部の泥質の場所に生育していることが多い。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かに生育しているが、どの場所でも個体数は少ない。丘陵地の開発によって減少し、現在の状態になったものと思われる。天白区では最近見ていない。緑区では滝ノ水湿地に生育していたが、生育地が宅地造成のため破壊された。

【保全上の留意点】

多少は耐陰性があり、林内の湿地にも生育していることがあるが、それでも過度の被陰には耐えることができない。湿地周辺の樹木を伐採し、開けた湿地を維持することが必要である。

【特記事項】

サワアザミとも呼ばれるが、他に同名の植物がある。茎にわた毛が多いものをツクデマアザミというが、はっきり区別できるものではない。

【関連文献】

保草 I p.33, 平草 III p.215.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ウコギ科>

オカウコギ *Acanthopanax japonicus* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、県内分布 1、総点 11。やや山地性の植物で、名古屋市では生育地も個体数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の低木。高さ 1m くらいになる。枝には長枝と短枝があり、葉は長枝では互生、短枝では束生し、長さ 2.5~7cm の柄がある。葉身は通常 5 小葉からなり、小葉は倒卵形、中央小葉が最も大きく、長さ 2~4cm、幅 0.7~2cm、上半部に低い鋸歯または欠刻状の粗い重鋸歯があり、先端は鋭頭~鈍頭、基部はやや嘴状の狭い楔形になる。葉裏の脈腋には小さい薄膜がある。花期は 5 月、雌雄異株で、短枝の先端から長さ 2~6cm の花茎を 1 本伸ばし、その先端に多数の花を散形につける。小花柄は長さ 3~12mm である。雄花は直径 3~4mm、花弁は 5 枚で黄緑色、5 本の雄随と短い 2 本の柱頭があり、雌花はより小さく、長さ 1.5~2mm の 2 本の柱頭がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味東谷山，鳥居ちぬ子 864, 1995-5-10）、名東区（猪高緑地，鳥居ちぬ子 3359, 2014-6-10；平和公園，鳥居ちぬ子 399, 1993-6-13）、天白区（相生山緑地，芹沢 88621, 2013-7-20）に生育している。

【県内の分布】

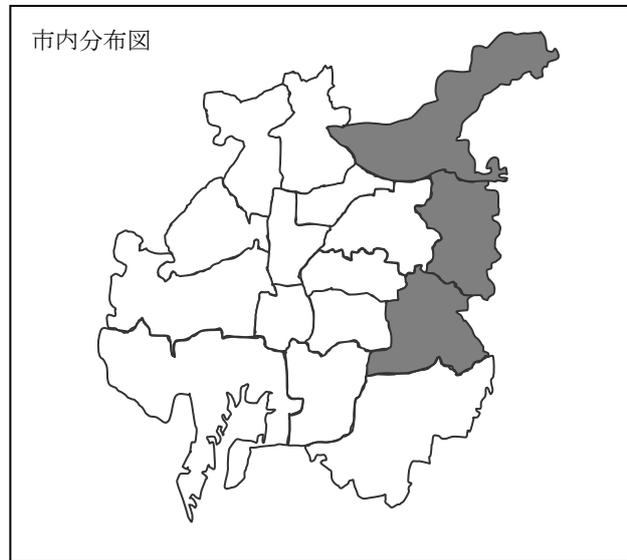
低山地に広く分布するが、丘陵地では少なく、平野部には出現しない。尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、大府東浦、半田武豊、犬山、春日井、岩倉西春日井の 6 区画で記録されている。

【国内の分布】

本州（関東地方南部から紀伊半島まで）。変種のウラゲウコギ var. *nikaianus* (Koidz.) H.Hara は近畿地方から九州北部にかけて分布している。

【世界の分布】

日本固有種。



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

何ヶ所かに生育しており、平和公園には比較的まとまった群落があるが、他の場所では個体数は少ない。名東区猪高緑地では遊歩道わきに 2 株生育しており、相生山緑地では小さな流れに沿って小群落があった。

【保全上の留意点】

生育地はいずれも保全緑地なので、当面はそのまま存続すると思われる。ただし相生山では緑地の辺縁部に生育していたので、何かの事情で失われるおそれがある。

【特記事項】

2014 年のレッドリスト案では絶滅危惧Ⅱ類として掲載したが、その後の調査により評価が変更された。ヒメウコギ *A. siboldianus* Makino は葉の裏面の葉脈基部に薄膜がなく、花柱が 5 裂する種類で、愛知県内でも稀に植栽されている。

【関連文献】

保木 I p.191, 平木 II p.118.

（執筆者 芹沢俊介）

維管束植物

維管束植物 <シダ植物 マツバラ科>

マツバラ *Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.**【除外理由】**

名古屋市のものは全て逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。根はなく、葉もない。根茎は不規則に分岐し、直径 1~2mm、褐色の仮根を密につける。地上茎は直立、斜上または下垂し、2~3回2又分岐し、高さは10~40cmであるが愛知県のもは大きくても25cm程度、緑色で無毛、枝は稜があって、断面が三角形となる。単体胞子のうは3室に分かれ、枝につくごく短い側枝の上につき、直径1.5~2mm、はじめ緑色であるが、熟すと黄色になる。胞子は黄白色である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区(小幡, 村松正雄 25927, 2011-7-10)、天白区(天白町八事裏山, 芹沢 88953, 2013-9-29; 音聞山, 渡邊幸子 6455, 2012-9-5)で採集された標本がある

【県内の分布】

確実に自生と思われるものは、鳳来北東部、田原東部、西尾南部で記録されている。豊川と豊田東部でもおそらく自生と思われるものが採集されている。大原(1971)は産地として足助、松平、西尾南部、鳳来、椎代、田原を挙げており、以前はもう少し広い範囲にあったものと思われるが、裏付けとなる資料はほとんど残されていない。確実に逸出と思われるものは、名古屋市で確認されているだけである。

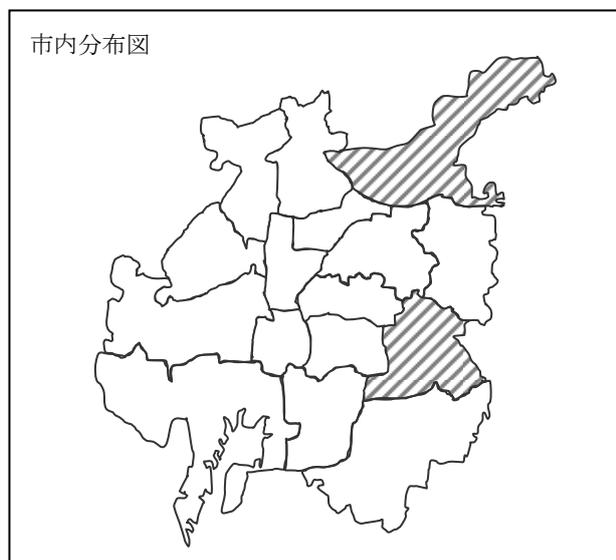
【国内の分布】

本州(太平洋側は宮城県、日本海側は石川県以南)、四国、九州、琉球、小笠原に生育しているが、全国的にも減少傾向が著しい。

【世界の分布】

世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

市内分布図

**【生育地の環境／生態的特性】**

名古屋市ではいずれも人家近くの石垣などに生育している。

【現在の生育状況】

散発的に出現する程度で、どの場所も個体数は少ない。

【保全上の留意点】

名古屋市のものはすべて逸出と思われ、保全の対象にならない。

【特記事項】

根も葉もなく、茎だけが二叉分岐をくり返す単純な体制は、現生の植物では他に類似したものがない。日本では古くから観賞用に栽培され、江戸時代には多数の園芸品種が知られていた。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.35. 名古屋管林局, 名古屋.

【関連文献】

保シダ p.6, 平シダ p.41, SOS 旧版 p.35+図版 9, 環境庁 p.417, SOS 新版 pp.43,44, 愛知県 p.302. 倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5:2-7. 東京大学出版会, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 初期分岐群 クスノキ科>

ニッケイ *Cinnamomum okinawense* Hatus.

カテゴリー

【除外理由】

名古屋市を含む愛知県のもの全て逸出で、評価の対象にならない。

名古屋市2015	国リスト
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

常緑性の高木。高さ15m、直径60~100cmに達する。葉は対生または2枚がややずれてつき、長さ8~15mmの柄があり、葉身は長楕円形、長さ8~15cm、幅2.5~5cm、先端は長くとがり、基部も狭いくさび形、全縁、葉質は革質で、裏面は粉白色、基部よりやや上で分岐した3脈が目立つ。花期は5~6月、花序は葉腋から出て葉より短く、散形でよく分枝する。花は淡黄緑色、花被は6裂し、裂片は細長く、長さ約5mmである。果実は楕円形で長さ約10mm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区（天白町八事裏山、渡邊幸子 2593, 1996-4-25）で採集された標本がある。

【県内の分布】

名古屋市のほか、鳳来北東部、鳳来北西部、新城、豊川、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、豊田南西部、岡崎南部、西尾北部、西尾南部、東海知多、美浜南知多、春日井、津島愛西などで確認されているが、多いものではない。

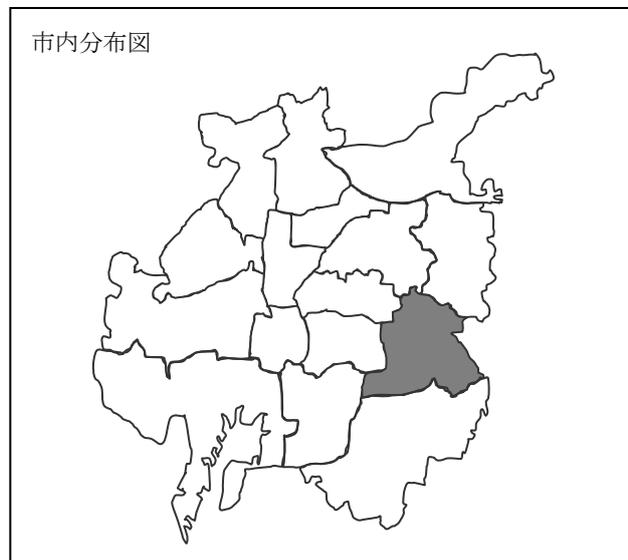
【国内の分布】

琉球（沖縄島北部、久米島、徳之島）に生育する。栽培起源のものが本州の暖地、四国、九州に逸出している。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

市内分布図



【生育地の環境／生態的特性】

自生地では、山地の照葉樹林内に生育する。

【現在の生育状況】

天白区では相生山緑地、天白町八事などに幼株が散在しているが、開花・結実するような大きい木は見えていない。注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。

【保全上の留意点】

本種については、本来の自生ではなく、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

根の皮から肉桂をとるため栽培される。

【関連文献】

保木 II pp.201-202, 平木 I p.115, 愛知県 p.628.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 トチカガミ科>

ミズオオバコ *Ottelia alismoides* (L.) Pers.**【除外理由】**

個体数階級 1、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 10。名古屋市では過栄養化した水路にも生育しており、当面絶滅が危惧される状態ではない。

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛知県2015	国リスト
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【形態】

1年生の水草。茎は短く葉を束生する。葉形の変異が著しく、水深や水流によって大きく変化する。小さいものは葉柄の長さ 1.5~2cm、葉身の長さ 3~5cm で花をつけるが、大きいものは葉柄の長さ 40cm、葉身の長さ 30cm に達する。葉身は披針形~広卵形~円心形、質薄く、葉縁に鋸歯がある。花期は 8~10 月、長さ 2~70cm の花茎の先端に 1 個の花をつける。花弁は 3 枚で、白~薄桃色。果実は 2~5cm、顕著なひだがある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

北区（丸新町~大我麻町境川、福岡義洋 4690, 1999-10-11）、中川区（富田町長須賀、高木順夫 248, 1992-7-11）で採集された標本があるが、他の区にも生育していると思われる。

**【県内の分布】**

平野部から低山地にかけて広く生育しており、尾張では名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、半田武豊、常滑、美浜南知多、犬山、江南丹羽、小牧、春日井、岩倉北名古屋、一宮東部、一宮西部、稲沢、あま大治、海部南部の 15 区画で記録されている。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

アジアの温帯~熱帯域、オーストラリア。

【生育地の環境/生態的特性】

湖沼のため池、水路、水田などに生育する沈水植物。生活排水が流入する都市近郊の過栄養化した水路でも見られる。

【現在の生育状況】

どこにでもあるというわけではないが、ある場所では多量に生育している。しかし、ため池や水路の改修、水田放棄などにより減少傾向にある。

【保全上の留意点】

水田や農業用水路ではできるだけ農薬や除草剤の使用を控えることが望ましい。過栄養化していない場所で生育が確認された場合には、保全上の配慮が必要である。

【特記事項】

過栄養化していない場所で生育が確認された場合には標本資料も作成してほしい。

【関連文献】

保草Ⅲp.395, 平草Ⅰp.3.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.28. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本水草 p.103. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 単子葉類 ラン科>

シラン *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb.f.

【除外理由】

名古屋市に生育しているものはすべて栽培品の逸出と思われる、評価の対象外である。

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30~70cm になり、基部はふくらんで扁平で直径 2~4cm の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に数個つき、披針形、長さ 20~30cm、幅 2~5cm、先端は鋭尖頭、下部は次第に細まり、基部は葉鞘となり、辺縁は全縁、硬い草質、無毛である。花期は 4~5 月、花はやや大型で茎の先端に 3~7 個つき、紅紫色、苞は長楕円状披針形で開花時に脱落する。がく片と側花弁は長楕円形、長さ 2.5~3cm、幅 6~8mm、やや鋭頭である。唇弁はくさび状倒卵形、先端は浅く 3 裂し、中裂片は円形で辺縁は波状、内面に 5 個の隆起線がある。果実はさく果で長楕円形、長さ 3~3.5cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区(田代町, 広部 栄 106, 1993-7-29)、天白区(土原一丁目, 中島ひろみ 401, 1994-5-2, 白花)、緑区(大高町大根山, 岡本沙矢香 283, 2001-5-19)などに生育している。

【県内の分布】

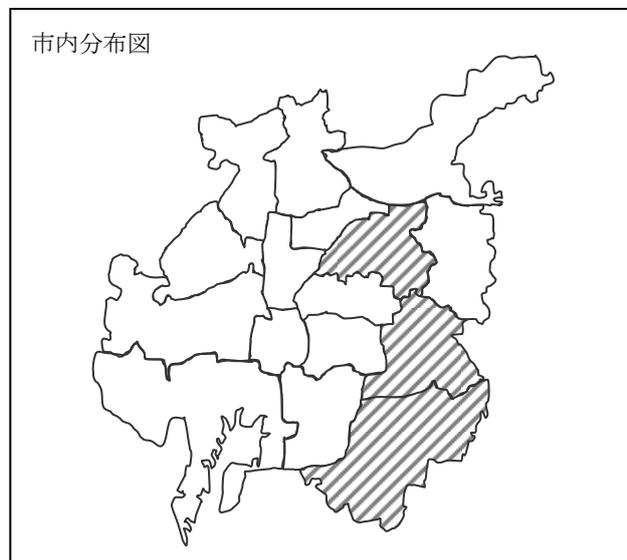
確実に自生と思われるものは、東三河の一部地域だけに生育している。逸出と思われるものは丘陵地を中心に各地に生育しており、尾張でも瀬戸尾張旭、長久手日進、東海知多、常滑、春日井などで採集された標本がある。

【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。



【生育地の環境／生態的特性】

名古屋市では、やや湿った日当たりのよい土手、工事跡の造成法面などに生育している。本来の生育地は、川沿いなどの湿った岩上である。

【現在の生育状況】

どこにでもあるというわけではないが、ところどころに見られる。

【保全上の留意点】

名古屋市のものはすべて園芸品の逸出と思われる、特に配慮する必要はない。

【特記事項】

白花品種のシロバナシランも稀に混生している。

【関連文献】

保草Ⅲp.48, 平草Ⅰp.217, 愛知県p.584.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 アリノトウグサ科>

オグラノフサモ *Myriophyllum oguraense* Miki

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 2、県内分布 2、総点 9。全国的に減少傾向の著しい水草であるが、名古屋市では近年増加傾向にある。

【形態】

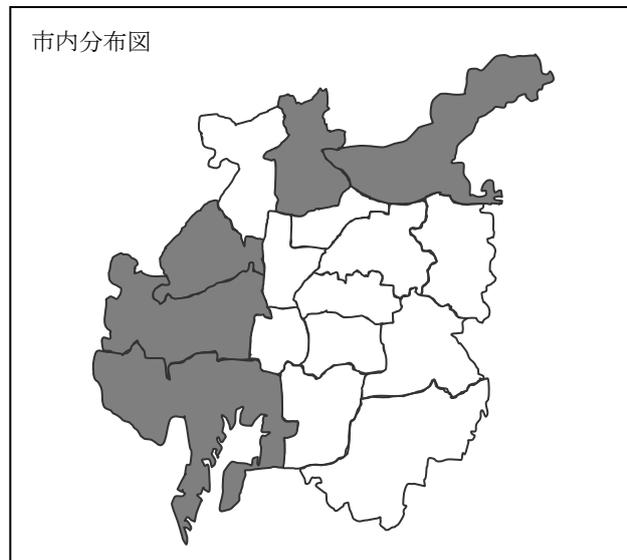
多年生の水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 1m くらいになる。水中葉は通常 4 枚が輪生し、長さ 2~5cm、幅 1~3.5cm、羽状に全裂し、裂片は糸状である。花期は 5~7 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は白くて小さく、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。花序の葉はやや小さく、淡緑白色である。殖芽は細長い棒状、長さ 2.5~8cm である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（中志段味宮前、芹沢 74421, 1997-11-6; 瀬古庄内用水, 中村 肇 716, 2014-9-23, NBC1334）、北区（辻町堀川, 芹沢 77512, 2001-7-14）、中村区（稲葉地町庄内川, 芹沢 85342, 2009-11-1）、中川区（野田, 中村 肇 740, 2014-8-30, NBC1353 など）、港区（福屋二丁目, 高木順夫 11730, 2003-10-11）に生育している。

市内分布図



【県内の分布】

名古屋市のほか、幸田、春日井、岩倉西春井、一宮西部、あま大治で確認されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池、河川などに生育する沈水植物。やや富栄養化した水域に多い。

【現在の生育状況】

守山区では中志段味才井戸流など、北区では堀川、中村区では庄内川本流、中川区では荒子川、港区では福屋、いずれも流水中に生育しており個体数は多い。堀川や荒子川では庄内川からの導水が続く限り存続すると思われる。止水域では守山区筧池（芹沢 74422, 1997-11-6）に生育していたが、水質汚濁のためか見られなくなった。

【保全上の留意点】

才井戸流は地形的にも重要な場所であり、その価値を認識し、生育地全体を保全することが必要である。堀川および荒子川は市街地を流れる人工河川であり、本種の有無に関わらず、水質を維持・向上させる努力が必要であるが、コイなど観賞魚の放流や微生物の投入は何ら水質改善につながらないため避けるべきである。

【特記事項】

和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。フサモ *M. verticillatum* L. に似ているが、花序の葉が緑白色であること、殖芽が長く手ざわりがかたいことなどで区別できる。ただし愛知県産の植物のうち、幸田のものは典型的なオグラノフサモであるが、それ以外は殖芽がやや太くて短く、フサモとの雑種であるハリマノフサモ *M. × harimense* Kadono et Sakiyama の可能性がある。県の絶滅危惧ⅠA類という評価は、典型品に限定して行われている。才井戸流のものは底土中にやや小型の殖芽をつけ、この点で他所のものとは異なっている。

【関連文献】

保草Ⅱp.36, 平草Ⅱp.271, 環境庁 p.495, 愛知県 p.392, SOS 新版 p.127.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 pp.234-235. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ブナ科>

ナラガシワ *Quercus aliena* Blume**【除外理由】**

名古屋市のものは全て植栽または逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	県リスト
愛知県2015	絶滅危惧IB類
環境省2014	リスト外

【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 25m、直径 90cm に達する。樹皮は黒褐灰色で、深く不規則に割れる。葉は互生し、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は倒卵状長楕円形、長さ 12~30cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび状、辺縁には鋭頭の鋸歯がある。はじめは表裏とも有毛だが、やがて表面は無毛になり、裏面は通常星状毛が密生して白色を帯びるが、星状毛がほとんどなく緑色のもの（アオナラガシワ）もある。花期は 4 月、雄花序は新枝の下に多数ついて下垂し、雌花は新枝の上部の葉腋からでる短枝に数個つく。果実はその年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は杯状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

名東区（猪高町高針、三浦康男 1998, 1997-8-11）、天白区（塩釜口、渡邊幸子 4010, 1999-9-12; 土原一丁目、中島ひろみ 436, 1994-9-18）、緑区（大高緑地公園、芹沢 89064, 2013-10-16）に生育している。

【県内の分布】

自生の可能性があるものは豊橋北部に生育している。これ以外にも県内のところどころに生育しているが、それらの大部分は明らかに植栽されたものである。

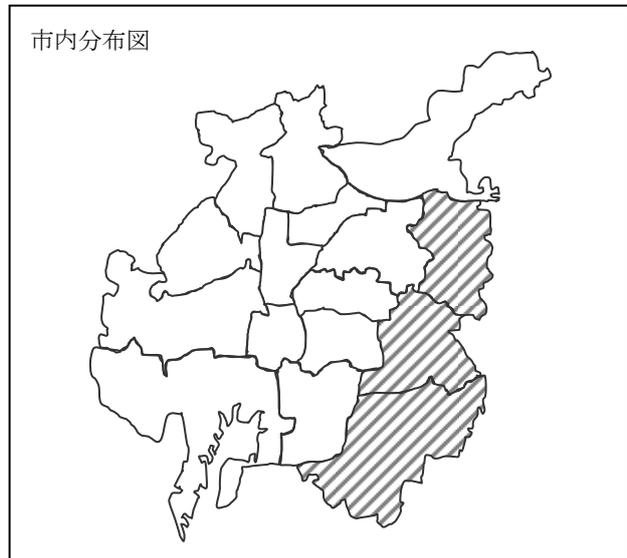
【国内の分布】

本州（岩手県・秋田県以南）、四国、九州に産するが、どこまでが真の自然分布かははっきりしない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸、ヒマラヤ。

市内分布図

**【生育地の環境】**

コナラやアベマキと共に、いわゆる里山の雑木林の構成種となっている。

【現在の生育状況】

点在しているが、個体数は少ない。

【保全上の留意点】

名古屋市のものはすべて植栽または植栽個体から二次的に逸出したものである。しかしコナラやアベマキに比べればはるかに少ないから、大木についてはある程度配慮する方がよい。

【特記事項】

コナラに比べ、葉が大きく、側脈が多い。

【関連文献】

保木 II p.267, 平木 I p.72, 愛知県 p.162.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ヤマモモ科>

ヤチヤナギ *Gale belgica* Duham. var. *tomentosa* (C.DC.) T.Yamaz.

【除外理由】

名古屋市ものは全て移入で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	県リスト
愛知県2015	絶滅危惧ⅠA類
環境省2014	リスト外

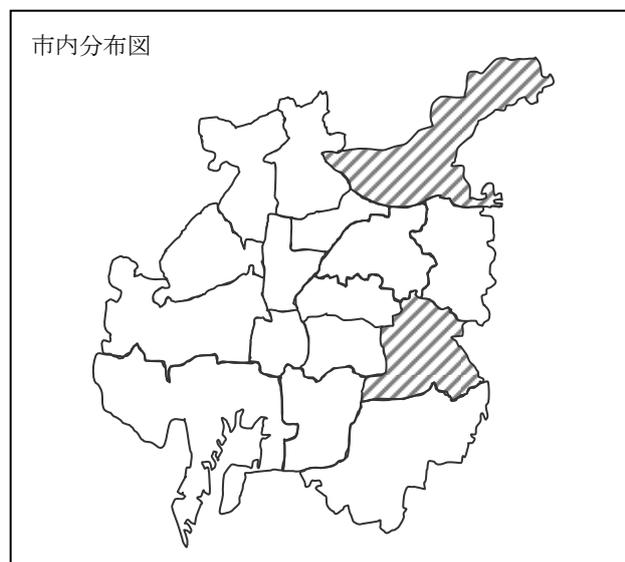
【形態】

落葉性の低木。高さ 30~80cm になる。枝は黒褐色で、若枝には白色の軟毛がやや密に生える。葉はほとんど無柄、葉身は倒披針形~倒卵状長楕円形、長さ 2~5cm、幅 0.8~2cm、先端は円頭、基部はくさび形、先端部に少数の鋸歯があるほかは全縁、両面に軟毛があり、淡黄色の油点が散在する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬~5 月、雄花序は長さ 7~10mm、雌花序は長さ 5~8mm となるが、愛知県では雄株しか知られていない。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区（天白町東山動物園裏、芹沢 55338, 1990-5-31）に、井波一雄氏によって黒河湿地から移植されたものが生育していた。この湿地はその後消失し、現在は守山区と天白区に再度移植されているらしい。



【県内の分布】

現存する自生地は、田原市黒河湿地だけである。豊川市と豊橋市南部にも生育していたが、前者は周囲の樹木の生長によって被陰され、後者は開発により生育していた湿地が破壊されて絶滅した。

【国内の分布】

北海道、本州（東北地方北部、尾瀬、愛知県、三重県）。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島北部、シベリア東部。種としては北半球の寒冷地に広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

泥炭湿地の、多少陸化が進んだ部分に生育する。ただし愛知県と三重県の自生地は湧水湿地である。

【現在の生育状況】

田原（黒河湿地）では激減して数株しか残存していないが、現在は小康状態を保っている。湿地自体は県指定の天然記念物として保護されているが、富栄養化が進んでおり、将来の存続が懸念される。名古屋市内における再移植後の状況は未確認である。

【保全上の留意点】

名古屋市ものは明らかに移入であり、再移植後は雌株が出現したという話もあって他産地のものが混入している可能性も否定できない。保全の対象にはならない。

【特記事項】

本種は北海道の湿地では普通に見られるため、国レベルのレッドリストではリスト外になってしまう。愛知県および三重県の本種は、地方版レッドデータブックの必要性を示す典型的な事例として、しばしば取り上げられている。本種のような希少種の場合域外保全は無意味ではないが、その場合は公的機関の手で、他産地のものが混入しないよう十分管理された状態で行うべきである。

【関連文献】

保木Ⅱp.350, 平木Ⅰp.27, SOS旧版p.44+図版17, SOS新版pp.98,100, 愛知県p.84.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミソハギ科>

ミズマツバ *Rotala mexicana* Cham. et Schtdl.

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛知県2015	国リスト
環境省2014	絶滅危惧Ⅱ類

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、県内分布 1、総点 10。水田雑草であるが、名古屋市ではまだ比較的多く残存しており、直ちに絶滅が危惧される状態ではない。全国的に見ても、それほど希少とは思えない。

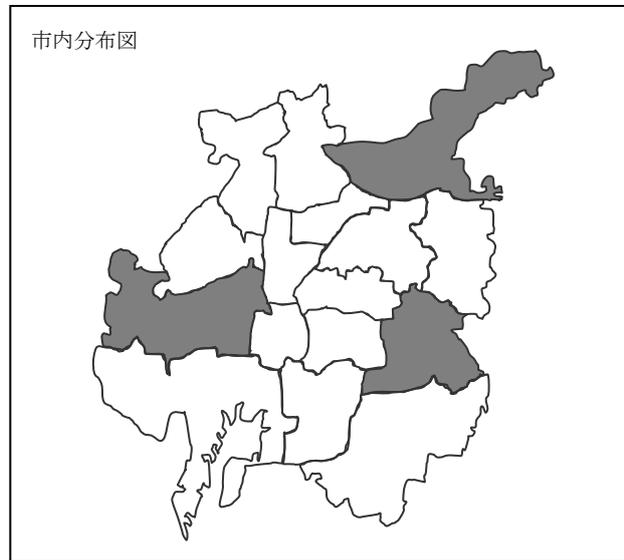
【形態】

1年生の水草。茎の基部は地面をはい、分枝して立ち上がり、高さ 3~10cm になる。葉は 3~4 個輪生し、無柄、線形~狭披針形、長さ 6~10mm、幅約 1~2mm、先端は鋭~鈍頭で微凹端となる。花期は 8~10 月、花は葉腋に単生し、柄がなく、淡紅色。がく筒ははじめ鐘形、のちに球形となり、三角形で長さ約 0.8mm の 5 裂片があり、花弁はない。蒴果は球形、長さはがくの 2 倍ほどある。種子は細かく、黒褐色である。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（下志段味吉田、鳥居ちゑ子 3414, 2014-10-15; 小幡緑地、鳥居ちゑ子 3264, 2013-8-26 など）、天白区（御幸山、渡邊幸子 4056, 1999-10-8）、中川区（戸田、高木順夫 5013, 1994-8-19）で確認されている。注意して探索すれば、他の区でも確認できると思われる。



【県内の分布】

全県的に分布しており、尾張でも名古屋市のほか、瀬戸尾張旭、長久手日進、犬山、春日井、一宮西部で確認されている。ていねいに調査すれば、このほかの区画でも確認できると思われる。ただし、平野部の広い水田には少ない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、沖縄。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、インド、中央アジア、アフリカなどに広く分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田に生育する沈水~抽水~湿生植物。

【現在の生育状況】

小型で目立たない植物であるが、よく探せば決して少ない植物ではない。ただし、名古屋市では宅地化などにより水田そのものが減少しているため、本種も減少傾向にある。

【保全上の留意点】

リスト外の種であるが、本種が生育しているような水田はそれなりに生物多様性が保たれていると思われる。その意味で適切な配慮が必要である。

【特記事項】

本種が環境庁のレッドデータブックに掲載されたのは、小型の植物でよく観察されておらず、そのため全国的に情報が少なかったことによると思われる。もっとも本種のような植物がレッドデータブックに掲載されていると、環境影響評価などの調査精度をチェックする上では好都合である。

【関連文献】

保草Ⅱp.47, 平草Ⅱp.261, 環境庁 p.492, 愛知県 p.595.

(執筆者 中村 肇)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 オオバコ科>

カワヂシャ *Veronica undulata* Wall.

カテゴリー

名古屋市2015	国リスト
愛知県2015	国リスト
環境省2014	準絶滅危惧

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1、総点 9。名古屋市では生育地も個体数も多く、当面絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

越年生草本。茎は直立または斜上し、高さ 10～50cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形～長楕円状披針形、長さ 2.5～8cm、幅 0.5～2.5cm、先はややとがり、基部はやや茎を抱き、辺縁には鋸歯がある。花期は 5～6 月、葉腋から長さ 5～15cm の細い花序を出し、15～50 個の花をつける。花冠はほとんど白色で皿状に広く開き、直径 3～4mm、4 裂する。蒴果は球形で、先がわずかにへこみ、長さ幅ともに 2.5～3mm、先端に長さ 1mm ほどの花柱が残存し、果柄は曲がらずに斜上する。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区（上志段味庄内川，鳥居ちゑ子 3344，2014-5-6；吉根庄内川，芹沢 80534，2006-5-21 など）、天白区（保呂町天白川緑地，渡邊幸子 5052，2002-5-5）、緑区（分久山，高木順夫 17586，2009-5-19，NBC210）、瑞穂区（弥富町天白川，渡邊幸子 5057，2002-5-5）、南区（大堀町天白川，渡邊幸子 5058，2002-5-5）、北区（六が池町，鳥居ちゑ子 2274，2003-4-18）、西区（山田町庄内川，芹沢 77881，2002-5-23）、中村区（中村町，鶴岡佐知子 43，1992-6-2）、中川区（富田町庄内川（芹沢 77266，2001-5-6）、港区（南陽町西茶屋，芹沢 79166，2004-5-10）に生育している。

【県内の分布】

名古屋市のほか、豊根東部、豊川、蒲郡御津、豊橋北部、豊橋南部、田原東部、田原西部、足助、豊田北西部、岡崎北部、刈谷知立、安城、高浜碧南、西尾北部、西尾南部、瀬戸尾張旭、長久手日進、大府東浦、東海知多、半田武豊、春日井、岩倉西春日井、一宮東部、一宮西部、あま大治、津島愛西で確認されている。平野部に多く、山間部ではほとんど見られない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本から中国大陸、東南アジア、インドにかけて分布する。

【生育地の環境／生態的特性】

水田や河川敷などの低湿地に多い。コンクリート水路の土砂がたまった場所などにも生育している。湿田状態が多少なりとも残されている場所では、春の水田雑草になっている。

【現在の生育状況】

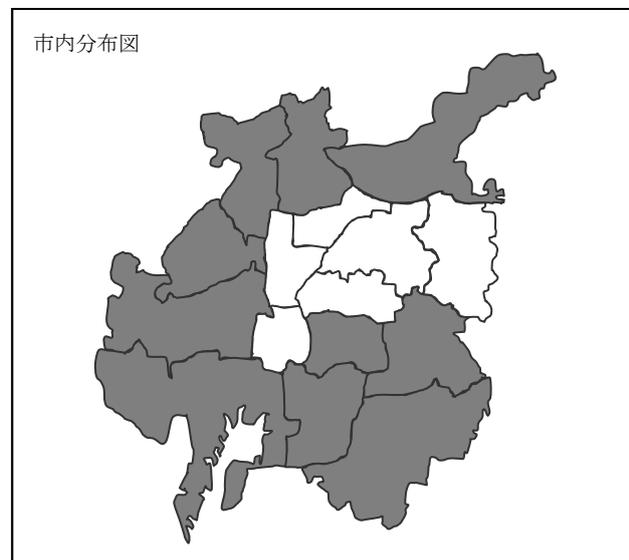
低湿地性の植物であるが、現在のところはやや普通種である。しかし、低湿地的環境の減少に伴い、全体として減少傾向にあることは確かである。特に庄内川では帰化植物のオオカワヂシャ *V. anagallis-aquatica* L.が増加し、それに圧迫されて減少傾向にある。守山区上志段味ではオオカワヂシャ 5 に対し 1 くらいの割合になっており、北区六が池町では一本も見られなくなった。

【保全上の留意点】

個体レベルでの保全に限れば現状ではそれほど神経質になる必要はないが、河川敷の低湿地的環境を全体として保全することは重要な課題である。

【関連文献】

保草 I p.143, 平草 III p.112, 愛知県 p.638.



(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 ミツガシワ科>

アサザ *Nymphoides peltata* (S.G.Gmel.) Kuntze**【除外理由】**

名古屋市ものは全て逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	国・県リスト
愛知県2015	絶滅危惧IB類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

多年生の水草。根茎は泥の中を長く這い、長い水中茎を出す。葉は長い柄があり、葉身は水面に浮かび、卵形または円形、直径5~10cm、辺縁には通常波状の歯牙があり、表面は緑色、裏面は紫褐色、基部は深く湾入し、葉柄はやや楕状につく。花期は6~8月、花は水上に出て開き、長さ3~12cmの柄があり、花冠は黄色で直径3~4cmである。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区（天白町島田大根池，芹沢 88052, 2012-10-8）に生育している。

【県内の分布】

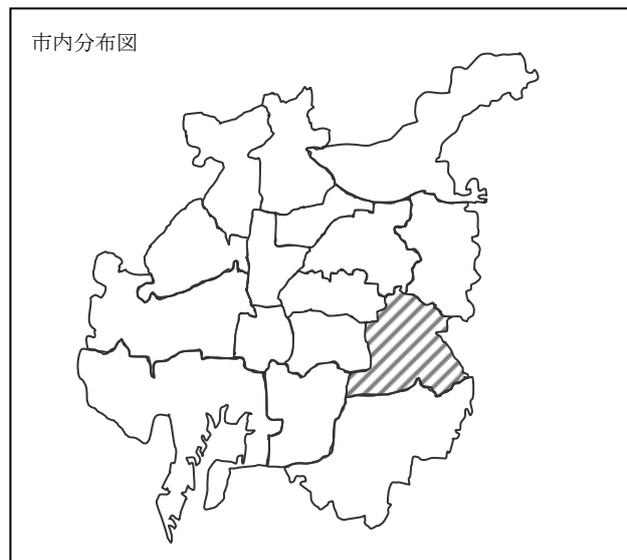
自生ものは海部南部の1ヶ所に生育しているだけである。移入されたものは名古屋市のほか、岡崎市、尾張旭市などに生育している。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布する。

**【生育地の環境／生態的特性】**

湖沼やため池、河川の淀み、水路などに生育する浮葉植物。愛知県の自生系統は流れのゆるい水路に生育している。また、愛知県の自生系統では開花が確認されていない。

【現在の生育状況】

大根池では、池の西半分を覆って繁茂している。今後池を覆い尽くす状態になれば、駆除を考える必要があるかもしれない。

【保全上の留意点】

名古屋市の本種自体は移入であり保全の対象にならないが、大根池の水質を維持することは重要な課題である。

【関連文献】

保草 I p.213, 平草 III p.36, SOS 旧版 p.72, 環境庁 p.514, 愛知県 p.220.
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.
角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草 p.296, 文一総合出版, 東京.

(執筆者 芹沢俊介)

維管束植物 <種子植物 被子植物 真正双子葉類 レンブクソウ科>

ハクサンボク *Viburnum japonicum* (Thunb.) Spreng.**【除外理由】**

名古屋市ものは全て逸出で、評価の対象にならない。

カテゴリー

名古屋市2015	県リスト
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

常緑性の低木または小高木。高さ1.5～6mになる。葉は対生し、長さ2～3cmの紫色を帯びた柄があり、葉身はひし状倒卵形～ひし状卵形、長さ5～20cm、幅4～15cm、先端は鋭尖頭か鋭頭、基部は広くさび形で、辺縁は上部にのみあらい鋸歯があり、革質、表面は暗緑色で光沢がある。花期は4月～5月、枝の先端に直径10～13cmの平らな散房花序をつくり、多数の花をつける。花は悪臭があり、花冠は白色、基部近くまで5裂し、直径約6mmである。核果は広楕円形または卵形で、長さ約8mm、晩秋に赤く熟す。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区（小幡北山，太田由美子 11, 1992-5-1）、天白区（島田黒石，武藤靖子 504, 1996-5-10）、緑区（大高町鷺津砦跡，渡邊幸子 4093, 1999-10-29）で採集された標本がある。

【県内の分布】

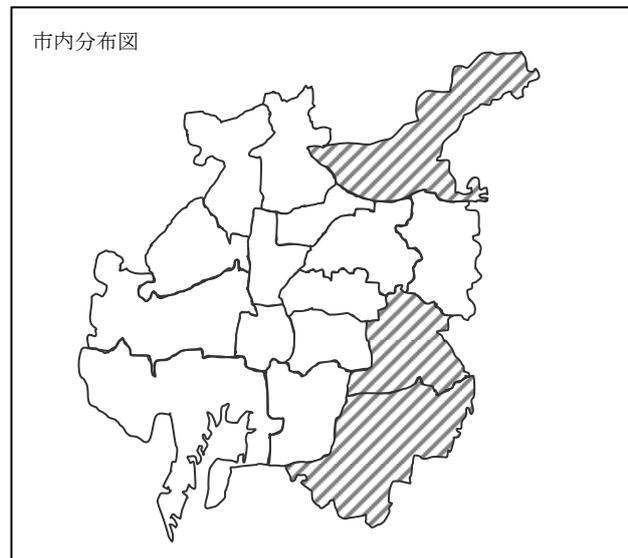
田原西部。東海知多にも自生の可能性が否定できないものがある。他区画のものは、現在のところすべて逸出と思われる。

【国内の分布】

本州（関東地方南部、伊豆諸島から愛知県までと山口県）、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

**【生育地の環境／生態的特性】**

本来は海岸近くの常緑広葉樹林の林内や林縁に生育する。

【現在の生育状況】

保全緑地や社寺林などに点在しているが、個体数は少ない。

【保全上の留意点】

名古屋市ものはすべて逸出であり、保全の対象にならない。

【特記事項】

本州中部のものは、コハクサンボクとして区別されることがある。和名は、石川県白山の産であるという誤認に基づく。ハクサンボクとミヤマガマズミの雑種らしいものが守山区（小幡北山，太田由美子 8, 1992-4-23）、天白区（音聞山，渡邊幸子 2031, 1995-4-23）で採集されている。

【関連文献】

保木 I p.101, 平木 II p.231, SOS 旧版 p.84, 愛知県 p.422.

(執筆者 芹沢俊介)